

# 北海道博物館におけるワークシートの開発と学校利用

東 俊佑

## Key Words

博物館教育 (Museum education)、学校利用 (School visit)、教材開発 (Development of teaching material)、博学連携 (Collaboration between museums and school education)、教育普及事業 (Education program)、調べ学習 (Study field trip)、補助教材 (Sub-teaching material)

## 1 はじめに

本稿は、北海道博物館の総合展示室における学習支援を目的に開発したワークシート（印刷物教材）の内容、及び開発にあたっての基本的な考え方を述べるものである。開発したワークシートは、すべて学校団体（小学校、中学校、高等学校等）による使用を想定している。

北海道博物館は、2015（平成27）年4月、旧北海道開拓記念館（以下、「旧記念館」と称す）と旧北海道立アイヌ民族文化研究センター（以下、「旧センター」と称す）が組織統合して開設された北海道立の総合博物館であり、北海道の自然・歴史・文化の大略を学ぶことができる社会教育施設である。博物館としての骨格は、基本的には旧記念館を土台とし、そこに旧センターの機能を加味した形で活動が展開されている。資料の収集・保管、調査・研究、展示・教育といった博物館としての基本的な活動は旧記念館の活動を母体とし、それに加え旧センター独自の調査研究活動、展示普及活動、社会貢献活動が別途行われる。

旧記念館時代から、北海道内外の多くの学校団体が館を訪れ、展示場（当時の名称は「常設展示室」）において学習活動が展開されてきた。そして、旧記念館は、学校団体の博物館利用を支援するためのサービス＝教育プログラム<sup>(1)</sup>を提供し、学校団体の受け入れを積極的に行ってきた。

2015年4月の北海道博物館リニューアルオープンから2年以上が経過した。現在の学校団体の博物館利用者数は、旧記念館並の利用実績である。リニューアルを経て、博物館の入館者数は、旧記念館時代の約4～10万人から、約10～15万人へと増加したが、学校団体の利用者数は2万人前後に留まっている。〔236頁表1〕は、旧記念館時代の2009（平成21）年度から、リニューアル後の2016（平成28）年度までの学校団体利用者数の推移を示したものである。これによると、中学校、高等学校、幼稚

園・保育園、特別支援学校・学級は、リニューアル後増加傾向にあるが、小学校は減少傾向にあり、累算では旧記念館時代とほぼ変わらない利用実績である。また、増加傾向とはいっても、高等学校は微増である。学校利用の大多数を占める小学校の減少傾向は、北海道内全体の児童数減少の影響（少子化等）も考えられるが、少なくとも利用者の割合の増加とは言えない。展示リニューアルの実施と学校団体の利用促進に、相関関係は認められない。

これにはさまざまな理由が考えられる。その第一は、学校側の事情である。すなわち、学校から博物館までの移動手段（バスの借り上げ等の予算）の確保や、授業時数・学習カリキュラムとの関係等の問題である。学校教育における博物館利用の必要性を痛感する教職員は多い。「バスが用意できれば、何回でも子どもたちを連れてきて博物館で学ばせたい」、「授業時数に余裕があれば、博物館での学習活動をきちんとやりたいのだが」といった教職員の声は博物館へ寄せられている。しかし、諸般の事情により来館困難な学校現場の現状がある。しかも近年は、バス代予算の削減という憂き目にも遭っているようである。

第二は、教職員の意識の問題である。博物館の存在や利用方法を教職員が知らない、あるいは博物館利用の必要性を教職員が感じていない場合である。

そして第三は、博物館側の問題である。総じて言えば、学校団体の受け入れ体制や提供するサービス（教育プログラムのみならず、施設・設備を含む）の不備である。

上記3つのうち、第一の問題は、教職員と博物館職員の間だけでの解決が困難な問題である。しかし、第二、第三の問題は、博物館側の努力の積み重ねにより、ある程度の解決を図ることが可能である。

北海道博物館では、2017（平成29）年1月と7月に、北海道内の学校に勤務する教職員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」を開催した。この事業のねらい

は、北海道博物館と、その近隣の北海道開拓の村の利用方法や展示の内容、及び体験学習メニューの紹介と、博物館を利用した学習活動を学校教育の中に取り入れてもらうことの普及である。博物館利用に関心のない教職員の意識が変われば、博物館利用の促進が期待できるとの考えに基づき、このような研修会を開催している。

第三の問題の解決方法とは、博物館職員が、謙虚に現行の事業や活動、あるいは基本的な運営方針を見つめ直し、学校団体のための直接的な支援体制を考え、教職員との協働により、より良い博学連携を模索していくことである。教育理念のない利用者数の実績主義が蔓延する昨今、そうした目先の利益にとらわれず、博物館は社会教育施設であるという原点に立ち返り、学校団体が必要とする学習支援を即応的に構築していくことは、博物館が本来あるべき姿である。

本稿で紹介するワークシートとは、学校団体における学習の直接支援を目的に開発したものである。これまで、北海道博物館では、旧記念館時代を含め、常設の展示場において学校団体が利用するワークシートの開発を行ったことが一度もなかった。したがって、本ワークシートは、1971（昭和46）年の旧記念館開館以来のはじめての試みとなる。

## 2 ワークシート開発の経緯

### (1) 学校利用の実態

ワークシート開発に至った理由には、受動的理由と積極的理由がある。

前者は、北海道博物館を訪れる教職員や旅行会社のコンサルタントからの要望である。すなわち、展示場見学の際、児童・生徒に遣らせる何かを用意してほしい、との博物館への要請である。そのほか、「展示内容を理解できない」、「展示のポイントがわからない」、「ワークシートのつくり方がわからない」、「展示場の活用方法がわからない」、といった教職員の声も博物館へ寄せられる。

小学校の利用は、小学校4年生の社会科見学・校外学習での利用が最も多い。クラス担任の先生は、ワークシート（「見学のしおり」と一般に呼ばれる）を事前に作成し、見学当日に展示場で児童に遣らせる、というスタイルで博物館利用を行うことが多い。しかし、博物館側が作成したワークシートが博物館に用意されていれば、それを利用する、もしくはそれを参考にしてオリジナルのワークシートを作成したいという教職員の声は多い。

これに対し、小学校6年生以上の修学旅行・宿泊研修等での利用の場合は、60分とか90分といった観覧時間を決めて、自由見学をさせるスタイルが多い。自由見学は、単なる物見遊山的な展示観覧に終始することが多く、

博物館での学習目的が明確でない場合、歴史や文化に興味・関心のない児童・生徒は、展示場や休憩コーナーでただ時間を費やすことになる。そうならないよう、学校や旅行会社は、「展示場で何か遣らせるもの」を博物館側に求めてくる。旅行は「思い出づくり」の側面が多分にあるので、何かを体験するというプランが選択される傾向にある。博物館で「何か遣らせるもの」がないと、修学旅行からの博物館離れは、どんどん加速することになる。

後者の理由＝積極的理由は、博物館側の意図と異なる学習活動が展開されていることへの危惧である。小学校4年生のクラス担任が作成したワークシートには、筆者の目から見て、非常にしっかりした内容のものもあれば、あまり学習効果がないと思われるものまでさまざまである。後者の例として、①ひたすら展示物さがしをするもの、②ひたすら展示物の名前を書かせるもの、③展示パネル解説文の文章が穴埋めになっているもの、等がある。①②のタイプは、次章で詳しく述べるように、小学校2年生以下の子どもが行うのであれば良いが、社会科見学で利用する小学校3～6年生に遣らせるものではない。また、③のタイプは、わざわざ博物館まで来なくても、学校の教室でパネル解説文のプリントを配布して、確認テストを実施すれば済む話である。

小学校6年生以上の修学旅行・宿泊研修等で利用する学校のなかには、60分にも満たない見学時間で自由見学を行っているところもある。北海道博物館の総合展示は、ゆっくり展示場を歩くだけでも60分かかるほど広い（面積3,000㎡）。60分未満の見学で、十分な学習活動が展開されているとは到底思えない。北海道博物館を訪れたという事実しか残らないのは、非常にもったいない話である。

「博物館は勉強するところで、つまらないところ」という印象のまま帰る子どもたちがいる。一方で、「博物館はおもしろいところで、遊べるところ」という印象を抱いて帰る子どもたちもいる。近年の博物館は、体験型展示や多彩な映像装置等（いわゆる「インタラクティブ展示」とよばれるもの）、子どもが楽しく遊べる仕掛けをリニューアル等を経て導入することが多く、後者のタイプの博物館をめざす傾向にある。しかし、前者にしても後者にしても、結局のところ、博物館という施設の意義の理解につながるものではない。博物館の基本理念は、「学びの場」であることである。利用者には、「博物館で学ぶことはおもしろい」、「わからないことや知らなかったことが、わかることはおもしろい」という印象を抱いて帰ってもらわなければならない。

博物館を訪れた利用者には、展示場でしっかりと学習してほしい。そのためには、展示場での学習活動を利用

者自身に任せるだけでなく、学びをサポートする教材を博物館側が用意しておき、いつでもそれを使って学ぶことができる体制を整えておくことが必要である。

## (2) 間接支援から直接支援へ

学校団体の利用に対する旧記念館の基本的な姿勢は、「学校のことは教職員に任せる」という考えであった。しかし、すべてを任せるわけではない。旧記念館の常設展示は、北海道の原始から現代までの通史展示（歴史展示）であり、時代の画期を基に「テーマ1」～「テーマ8」に分けて展示が構成されていた。そして、各テーマごとに「常設展示解説書」がつくられ、A4版で約60頁仕立てのものが全部で7冊（テーマ7と8は合冊）刊行されていた。その内容は、詳述された教科書のようなものであるが、一般利用者にとっては難易度が高く、学習意欲の比較的高い利用者に適したものであった。教職員が全く使いこなせないわけではないが、時間に余裕のない教職員、あるいは社会科を専門教科としない教職員が、この「常設展示解説書」を読んで展示内容を理解するのは非効率的であった。

そこで、旧記念館では、展示の要点が直截簡明に理解できる教職員向け解説書として、『北海道開拓記念館利用の手引き 記念館ってなあに？』を1998（平成10）年2月に刊行した。この冊子は、常設展示場配置の解説員が執筆・編集を担当し、学芸員の校閲を経て刊行したものである。常設展示場見学の際の事前・事後学習や見学のしおりづくり等への活用を目的に作成したもので、展示の見どころや児童・生徒への指導のポイントが、展示物の写真とともに示されている。

また、1990年代後半からインターネットが普及し、旧記念館でもウェブサイト（ホームページ）が開設された。教職員は、博物館の利用方法や展示室の構造、展示物の内容等を気軽に調べることができるようになった。「収蔵資料検索」のデータベースも公開されたので、旧記念館が所蔵する博物館資料の情報や写真を検索することも可能になった。

以上のように、旧記念館は、「展示解説書」「利用の手引き」「ウェブサイト」の充実により、教職員の教材、及び指導案作成の間接支援を行ってきたと言える。これらは、いわば「教職員のための教材の開発」事業である。裏を返せば、旧記念館は、児童・生徒が展示場で使う教材を直接的には開発してこなかったのである。

2015（平成27）年4月の北海道博物館リニューアルオープンにより、展示の内容は、旧記念館時代とは大きく変わった。博物館では、オープン時に合わせて『北海道博物館ガイドブック』、翌2016（平成28）年4月に『ビジュアル北海道博物館』という展示解説書を刊行した。前者は、

施設や展示室の構成が掴める程度の簡単なものであった。後者は、各展示コーナーの主要な展示物までを説明する詳細な内容である。

また、2017（平成29）年3月には北海道博物館の利用方法や展示室の構成、教育プログラムの内容や、見学の申し込み手続きを簡解した『北海道博物館学校利用ガイド』を作成した。リニューアルオープンから2年を経て、ようやく学校団体が北海道博物館の総合展示室を使って学習活動を展開するための、最低限の環境を整備したと言える。旧記念館並みの教職員への間接支援体制が整備されたのである。

しかし、学校教育との連携を深め、学校団体の利用促進を図り、北海道博物館が社会教育施設としての役割を全うするためには、従来の間接支援体制から、児童・生徒のための教材等を博物館側が提供する直接支援へ転換していくことが望ましい。単に展示の意図や展示物の解説を充実させるだけでなく、展示の使い方、見学のモデルケースまでを博物館側が学校団体へ情報提供していくべきである。博物館が作成した教材や見学モデルを、教職員が採用するかしないか、あるいはそれをベースに教職員がアレンジしていくか等々は、教職員各々の判断に任せるという姿勢へ転換していくことが、今後の直接支援のあり方であろう。そのためには、①児童・生徒のためのワークシートの開発、②ワークシートの利用法に関する教職員への説明会（研修会）の開催、を博物館側が主体的に実施することが必要となる。

## (3) 旧記念館のワークシート：チャレンジシート

### ①チャレンジシートの内容

本稿「1 はじめに」において、旧記念館では、学校団体向けワークシートを開発したことは一度もない、と述べた。しかし、一般向けワークシートを開発し、それを常設展示場に配置していたことはある。

筆者は、かつて事業部教育普及課に配属されていたとき、「チャレンジシート」という名前のワークシートを解説員と共に開発し、2007（平成19）年4月から運用させたことがある。このワークシートは、子ども同士や親子連れの利用者が常設展示場で使うことを目的に開発したものである。レベル1～3（幼児向け、小学校低学年向け、小学校高学年向け）の3種類開発した。

レベル1は、展示物の写真を14並べて、見つけたらチェックを入れるといった、ごく単純な探検型ワークシートである〔243頁写真1〕。提示した写真は、常設展示7つの各テーマから2つずつを選んだ。具体的には以下の展示物である。

1 テーマ：ゴマフアザラシの剥製、ナウマンゾウの骨格標本

2 テーマ：アイヌ民族の木綿衣、杯と捧酒籠

3 テーマ：徳川家康黒印状、蝦夷地御用旗（複製）

4 テーマ：開拓使札幌本庁舎模型、屯田兵制服

5 テーマ：いずこ、もっこ

6 テーマ：馬搬ジオラマ、鬼瓦

7 テーマ：電気炊飯器、鉄人28号のブリキおもちゃ

レベル2は、展示物をじっくり見るように促す問題を4問出題したクイズ型ワークシートである〔244頁写真2〕。答えは記号選択式、もしくはスケッチ式を採用した。具体的には以下のとおりである。

もんだい1：ナウマンゾウとマンモスゾウの骨格標本を見比べてナウマンゾウの骨格標本を選ぶ問題。

もんだい2：展示物の写真6つの中からアイヌ民族に係る展示物を2つ選ぶ問題。

もんだい3：馬耕のジオラマとワークシートに示された写真を比べて間違いさがしをする問題。ワークシートには馬ではなくヒグマがプラウを牽いている写真を示し、正しい情景をジオラマを見てスケッチさせる問題。

もんだい4：採炭現場（パノラマ）の写真を提示し、何をしているところかを尋ねる問題。

レベル3は、レベル2と同様のクイズ型ワークシートである〔245頁写真3〕。小学校高学年の利用を想定していたので、問題の難易度をレベル2よりも高くした。7つのテーマから各1テーマ1問の出題である。具体的には以下のとおりである。

1 テーマ：ナウマンゾウとマンモスゾウの骨格標本の写真を見て、各々のゾウの名前を記入する問題。

2 テーマ：アイヌ民族の昔の家屋に併置されるクマ檻の中の動物を3つの選択肢から選ぶ問題。

3 テーマ：トド皮の写真を見て、何の動物の皮かを3つの選択肢にある動物の剥製から選ぶ問題。

4 テーマ：開拓使札幌本庁舎の北辰旗やサッポロビールの瓶、サケ缶詰に示されたマーク（星＝★）をスケッチする問題。

5 テーマ：ニシン漁のジオラマを見て、何の魚をとっている場面かを書かせる問題。

6 テーマ：三等客車のジオラマから流れる音声を聞いて、女の人が持っているリンゴはどこでとれたリンゴかを3つの選択肢から選ぶ問題。

7 テーマ：6つの展示物の写真から、電化製品ではないもの1つを選ぶ問題。

上記3種類のワークシートは、学校団体の利用を想定したものではなかったが、教職員が見学の際に使いたいという要望が寄せられた。そのため、使用するのには構わないという方針で運用した。ただし、児童・生徒分のワークシートを館側で用意（印刷）するのではなく、

ワークシートのデータを、それを使いたいという教職員へ事前に渡し、予め学校で印刷・配布のうえ、使用してもらう方式である。

なぜ構わないという方針をとったかと言うと、「チャレンジシート」は、学校における教育目標や学習指導要領のこと等を全く考慮せず、博物館側が適当につくったものだからである。ワークシート作成を発案したのは、筆者と数名の解説員である。問題の作成にあたっては、解説員全員に問題を一人10問ずつ考えてもらい、その中から筆者が編集作業をして、ワークシートに仕立てた。常設展示場において恒常的に利用者と接するなかで、利用者の展示に対する問題意識や着眼点を熟知している解説員の、経験と知識を活用して作成したものである。だから、「チャレンジシート」が学校団体の見学に活用できるかどうかは、使用を希望する教職員の判断に任せるという方針で、データを提供したというわけである。

ワークシートは年度ごとに種類を順次増やしていく計画であった。しかし、筆者が教育普及課から配置転換となり、後継の担当者にはワークシート開発事業が引き継がれなかった。そのため、開発は頓挫し、その後種類が増えることはなかった。

## ②旧記念館でワークシートが開発されなかった理由

そもそも旧記念館では、なぜ「チャレンジシート」が開発される2007（平成19）年まで、ワークシートが開発されなかったのであろうか。旧記念館は1971（昭和46）年開館である。したがって、「チャレンジシート」開発までの約35年間、常設展示場で利用者が使用する補助教材<sup>(2)</sup>は存在しなかったことになる。もちろん、『常設展示解説書』等の詳細な冊子や、チケット売場で入館時に配られるリーフレット等も補助教材である。しかし、利用者が展示場で使いながら独学で学習するような教材＝ワークシートは作成されなかった。その大きな理由には、以下の3点があると考えられる。

第一は、旧記念館の、展示に対する姿勢である。旧記念館の展示の基本理念は、旧記念館の諸先輩・OBの方々から筆者が口伝えて教わったところによると、観覧者が展示を見て、何を理解し、何を学ぶかは観覧者の自由であり、博物館側は素材（展示物。実物資料のほかジオラマ、パノラマ、模型、複製等の二次資料を含む）さえ提供すれば良い、というものである。旧記念館の常設展示は、博物館展示の古典的分類法である新井重三の「提示型展示（鑑賞展示）」、「説示型展示（学術解説展示）」（新井 1981）の別から言えば、明らかに後者である。常設展示（第Ⅱ期）の表記物（パネル・ネームカード等）は、各展示コーナーに展示パネル（解説文のみ、もしくはそれに写真・図画・図表・年表を含むもの）、

展示物の名称と年代、もしくは20文字程度の説明を記したネームカードが置かれるのみであった。すなわち、博物館側は観覧者に対し、展示シナリオに沿って、北海道の歴史・文化等を理解するのに必要な情報を、解説パネルやネームカード等によって提供するが、個々の展示物が持つ意味についての詳細な解説は行わず、それを考え認識するのは観覧者自身、という姿勢である。こうした考えは、長谷川栄の「ものを見せる」に専従する考え方（長谷川 1981）や、ロジャー・S・マイルズの「博物館の本来の機能は収集品を公開して『もの』自身に語らせることにある」といった展示論（R. S. Miles 1982）に共通するものであるが、青木豊によれば、「これら両氏に代表される初源的展示論とも看守される「物をして語らしめよ」といった格言めいた文言は、今日の博物館界にもまだまだ根強く遺存している考えであるが、これは当該資料に対する知識が豊富なごく一部の利用者にもみ対応することであって、一般的利用者には必ずしも『もの』は自らは語ってくれないことを再度確認しなければならないのである」ということである（青木 2000：20）。

旧記念館の第Ⅱ期常設展示に係る『常設展示改訂事業報告』には、「表記物設計」に関して、「解説を多くすることが必ずしも展示にとって良い結果を生むとは限らないだけに」や、「展示パネル類など表記物は可能な限り少なく且つ必要十分な数量とすべく検討を重ね」等と記されており、表記物による解説を意図的に抑止しようとした姿勢が見える（北海道開拓記念館 1994：64）。また、旧記念館の設立から携わり、のち学芸部長も務めた北川芳男は、博物館における展示の意義と役割について、「展示事業のむずかしさは、博物館側の学問的・教育的意図を明らかにし、自然なり、歴史なりをものに語らせることにある。つまり、基本的にはものとひとの対話のなかで、それぞれのひとびとが自分自身で学びとれるように構成されなければならない、それは知識の切り売りや、押しつけになってはいけない。そのため、解説文や説明文は飽くまでもひとびとが考えるための補助的手段なのである」と述べ（北川 1986：103）、展示物（実物資料）を見せることが博物館展示の基本姿勢であることを訴える。こうした基本理念は、展示物（展示資料の点数）を意図的に抑制して、きれいにデザインされたグラフィックパネルを多用する昨今の新展示、及び展示リニューアルの潮流からすれば、誠に正鵠を射た主張である。表記物による解説を充実すればするほど、展示室内がいわゆる「文字だらけ」の状態に陥り、観覧者に展示物へ着目してもらえなくなるばかりか、観覧者の展示への嫌気を誘発する危険さもある。しかし、展示物の名前と幾分の情報が記されたネームカードが置かれるだけの

展示では、観覧者に展示の意図を理解してもらうのはきわめて困難である。このような環境においては、観覧者に展示物の見方や着眼点を教導、ないし誘導する性格を内包する補助教材＝ワークシートが開発される芽は、旧記念館にほばなかったと言って良いだろう。

第二の理由は、解説員による展示解説の存在である。旧記念館では、1971（昭和46）年の開館以来、常設展示室、体験学習室、特別展示室に解説員と呼ばれる非常勤の女性スタッフを配置し、観覧者に直接語りかける形式の解説活動を展開してきた。この制度は、ヨーロッパやアメリカの博物館における普及教師（Museum Teacher）やボランティア（ドーセント Docent）の活動を参考に採り入れたもので、1970年代当時としては、全国的にもユニークな試みとして博物館関係者に知られていた（北海道開拓記念館 1981）。展示解説は、予め決められた時間で行うガイドツアー形式の定時解説ばかりでなく、一般来館者の求めに応じて随時実施する方式が採られていた。また解説員は、展示場内に設置されたインフォメーションカウンターや各展示コーナーに常時7～8名配置されていたので、来館者の質問や、児童・生徒の郷土学習・グループ学習へも対応できる体制となっていた。旧記念館の展示解説の思想は、〈人〉から〈人〉への解説である。したがって、個々の展示物の説明や意味、展示の意図・ねらい等を観覧者に伝達するのは、解説員の役割だった。解説パネルやネームカードによる過度な解説文の提示を忌避したのは、解説員制度の存在とも大きく関わっていた。

第三の理由は、職員のワークシートに対する意識と作成意欲の問題である。筆者は、2003（平成15）年8月に旧記念館採用となったが、学芸員の職に将来就くことを想定していなかったため、勤務当初は、学芸員資格を持たないまま職務にあたっていた。正直言って、博物館に関しては全くの素人であった。素人的な目をもって勤めるなかで、常設展示について最初に思ったことは、展示の内容が難解であることと、展示室内になぜ「解説シート」や「ワークシート」等の補助教材が一つもないのだろうと思ったことであった。

ワークシートは元々、教職員が博物館見学の際に児童・生徒に配布するためにつくるもので、「見学のしおり」等とも呼ばれている。博物館と学校教育との連携の高まりのなかで、博物館が作成・準備する事例が増えた。ワークシートのような補助教材を用意している公立（都道府県立、市町村立）博物館は、現在では比較的多い。近年は、ウェブサイト（ホームページ）に学校利用のページを開設し、ワークシートのデジタルデータ（PDFファイル等）をそこからダウンロードできるようにしている博物館もある<sup>(3)</sup>。このような趨勢のなか、旧記念館

に補助教材が用意されていなかったのは、博物館としては稀有なことであった。

その理由は、先に述べたとおりであり、筆者は就職して数年でそれを知ることとなる。しかし、それを把握してもなお、旧記念館の展示解説の理念には、些かの疑念を抱いていた。2005（平成17）年4月～2009（平成21）年3月まで、筆者は教育普及課に配属されたが、配属から1年が経過して取り組んだのが、先に述べた「チャレンジシート」の開発である。実は、常設展示場内へのワークシート配置は、筆者の発案ではなく、常日頃から展示場で利用者と接している解説員からの要望であった。

利用者にはさまざまなタイプの人がいる。一人でじっくり展示を観覧したい人もいれば、誰かと会話を楽しみながら観覧したい人もいる。解説員は、解説がその人にとって押しつけがましいものにならないように、観覧者の雰囲気を知り、機会を窺い、絶妙のタイミングで声をかけて交流をはじめる。学芸員がたまたま展示場に立つと、「解説の押し売り」や、あるいは逆に「沈黙の木偶の坊」になってしまうことも多い。解説員は学芸員にはない大衆性と親近感を持ち合わせていると指摘されるが（北川 1979：200）、これは長年にわたって展示場で利用者と接してきた熟練の経験が成せる業であろう。その解説員から見て、ワークシートは必要だという声が上がったのである。その理由は、ワークシートをきっかけとして、利用者との会話や交流の糸口が生まれる可能性があるからだ、と言う。沈黙したまま、あるいは不満を抱えたまま、展示場を去っていく利用者は想像以上に多いのだろう。展示の意図やねらいを利用者に理解されないのは、博物館、博物館職員として本意ではない。解説員によるワークシート必要性の主張は、〈人〉から〈人〉への展示解説が旧記念館の基本理念であることを十分に理解したうえでの、旧記念館に対する彼女たちなりの嘆願だったと言える。

アメリカの学習理論家バーニス・マッカーシー（Bernice McCarthy）は、人びとの情報認識と処理の方法を4つに分類し、学習スタイルを創造的、分析的、常識的、動的の4つに分類する4MATシステムを提唱している（並木 2012）。マッカーシーは、これを博物館利用者に適用して分析し、利用者には、映像展示や解説スタッフとの交流を好むタイプ、解説文を読むのを好むタイプ、インタラクティブ展示（体験・実演的展示）を好むタイプ等があると指摘する<sup>(4)</sup>。展示観覧者には、独学を好む人もいるだろうし、スタッフによる解説や交流を好む人もいる。独学を好む人のなかにも、スタッフに声をかけずらい性格の人であれば、物の見方や展示の意図等、学習ヒントの享受を求めながら、それができずに黙する人もいるだろう。

利用者には、さまざまなタイプの人がいる。旧記念館の展示解説の理念に欠落していたのは、利用者の多様性への視点である。展示物の解説（解説文）を少なくして解説員を配置するだけでなく、すべての利用者の多種多様なニーズに応えるために、補助教材の充実にも力を入れるべきであった。それは、市場での買い物（店員との対話を伴う）を忌避し、スーパーやコンビニでの事務的な買い物を好む顧客の心理に似ている。展示解説の理念に固執して、決まりきったサービスの提供のみにこだわってきたことが、旧記念館の反省点であろう。

このような環境において、旧記念館で働く学芸職員が、ワークシートの必要性を実感しなかったのは当然の帰結である。ワークシートがないことに違和感を感じない〈風土〉が旧記念館には席卷していた。これが職員のワークシートに対する意識の問題である。

もう一つの作成意欲の問題は、学芸職員個々の意識の問題である。小規模な組織だと職員間でコミュニケーションが比較的とりやすいが、学芸職員20名を超えるような大きな組織になると、職員同士で牽制し合ったりして自己主張を躊躇したり、黙す場合もある。ワークシートの必要性を感じる職員がいても、日和見的に主張しないまま埋没する。独裁的リーダーが牽引するような組織でないと、活動が停滞することもある。そのほか、職員の〈やる気〉の問題等もあろうが、それについては敢えてここで論じる価値のないことである。

### ③チャレンジシート問題作成時の留意点

博物館におけるワークシートとは、「その呼びかけや設問で展示資料に利用者をひきつけ、観察の仕方のヒントを与えることによって、発見のよろこびや新たな理解へと導くもの」（木下 2009：75）、あるいは「学習者が資料から気づきや感動をうけ、学習者自身がそこに自分なりの意味や価値を見い出すことを可能にする、『気づき』という思考誘発の学習支援ツール」（木下・横山 2012：82）と定義される。ワークシート作成者は、ワークシートが、利用者の展示への理解を手助けする教材である反面、展示の見方や着眼点を教導、ないし誘導するという性格を内包していることにも留意しなければならない。

博物館資料（展示物）の見方や解釈は、多種多様であって然るべきはずである。しかし、例えばクイズ形式（問題解決型）のワークシートは、利用者が、クイズ（一つの見方や解釈）の解答を考えるだけで満足し、それ以上の思考に発展しない場合が多い。利用者は、ワークシートを通じて教導・誘導する博物館側の一面的な見方や解釈という陥穽にはまり、展示物の観察等を通じた新たな疑問や見解を導き出すことは稀有となる。した

がって、ワークシート作成者は、ワークシートが利用者  
を思考停止に陥らせ、多様な解釈を生み出す可能性を封印する危険を伴っていることを常に念頭に置く必要がある。

ワークシートの展示場への配置とは、博物館側による  
展示・展示物の見方や解釈の一つのモデルを利用者に提示することである。ワークシートを配置しないのは、見方・解釈を利用者に委ねることであり、逆に配置は、一つのモデルの提示による見方・解釈の束縛を孕む行為である。しかしながら、前者は、利用者の大半が、学芸員のつくった難解な展示の意図やねらいを理解してくれるという前提に立った考えである。研究者等の知識が豊富で専門に精通した利用者にはあてはまっても、一般利用者にはほとんど通用しない論理である。美術館のように、はじめから作品の鑑賞を第一の目的に掲げて展示する施設であれば、例えば絵や彫刻作品をどのように見て、どう解釈しようが個人の自由、でも通じる。しかしながら、学芸員が意図をもって展示物の配列を考え、展示シナリオなるものまでを用意して展示を構成する博物館の歴史展示等において、個々の展示物の解釈は個人の自由というだけでは済まされない。ましてや昨今の“おもてなし教育”の時代においては、利用者に不親切な時代遅れの考え以外の何物でもない。展示内容を理解できないまま帰る利用者の数が多かったことは想像に難くない。ワークシートの危険性を承知のうえで、一つの見方・解釈だけでも利用者に理解してもらおう方が、次の思考につながる可能性がある。

ワークシートは、以上のような問題を常に孕んでいる。しかしながら、筆者が旧記念館で「チャレンジシート」を開発した際は、そのような問題に気づくことなく作成したのが実態である。ただ、博物館ワークシートの基本原則は遵守した。それは、展示物をじっくり見たり、展示に注目させたりするように促す問題を出題することである。博物館に来て展示物を実際に見なくても解けるような、解説パネルの穴埋め問題のようなものは、ワークシートで扱っても意味がない。利用者にワークシートを使ってもらって、少しは展示場で楽しんでもらえれば良いという想いで作成したのである。諸岡博熊のいう「沈黙の不満客」(諸岡 1990)を少しでも減らそうというのがワークシート作成のねらいであった。

結局のところ、「チャレンジシート」を運用しはじめてから、いくつかの問題点が課題としてあがった。当然予想されたことであるが、「チャレンジシート」で扱っている問題の部分しか展示を見てくれないという現象が発生した。すなわち、問題出題箇所以外の展示は、スルーされてしまうのである。

また、「チャレンジシート」は、“とりあえず展示場で

何かを学べる手頃な教材”といった軽い気持ちでつくったものなので、常設展示の学習目的を特段に意識せずに作成した。すなわち、学習目的が不明瞭な教材である。また、紙幅の関係等から、一つのチャレンジシートで扱う問題の出題数は制限せざるをえない(4問とか7問とかになってしまう)。「チャレンジシート」を遣ったからといって、利用者が北海道の歴史や文化を総体的に理解できるわけではない。一般利用者であれば然もありなん。しかし、学校利用となれば、それはあまり好ましいことではない。先に「チャレンジシート」を社会科見学等で使用する学校があったことを述べた。ただ楽しめれば良いというコンセプトの「チャレンジシート」は、本来、学校利用には適さない補助教材である。今後、学校利用のためのワークシートを開発する際は、学習目標や効果を考慮して作成にあたる必要がある。

#### (4) ちゃれんがラリーと子ども用リーフレット

2015年4月の北海道博物館リニューアルオープンの1年前に再び教育普及課に配属となった筆者に与えられた課題は、「教育普及プラン」の策定、すなわちオープン後の教育普及事業の運営方針や事業計画の素案をつくることであった。そのなかの具体的な取り組みの一つとして、館内で利用者に配布するリーフレット(以下、「館内リーフレット」という)の作成があった。利用者が、チケット売場等で入館料を支払った際に、受付スタッフから手渡され、施設の概要や館内マップ等が記されたものである。

旧記念館の館内リーフレットは、日本語(大人用)、日本語(子ども用)、英語、中国語、韓国語、ロシア語の6種類が作成されていた。内容は、「沿革」(館のあらまし)、「利用案内」(観覧時間、休館日、観覧料、交通等)、常設展示の内容(各テーマの名称と説明、展示室の写真)、館内マップ、館内施設(特別展示室、収蔵陳列室、情報サービス室、体験学習室、講堂)の紹介、「おねがい」(利用者への展示室内での注意事項)である。子ども用は、大人用の難しい文章を総ルビにしただけのものではあった。外国語4種類は、日本語大人用を各国語に翻訳したものである。つまり、リーフレット6種類の体裁は、すべて同じであった。

詳しく調査したわけではないが、旧記念館の子ども用リーフレットは、子どもに読まれることがほとんどなかったと考えられる。学校団体の利用があった日や、親子連れでにぎわう土・日曜日や祝日になると、館内のあちこちや、森林公園の遊歩道等に、リーフレットが捨てられているのを目にすることが多々あった。学校団体の見学时に児童・生徒(小学生、及び中学生)に配布するのは、この子ども用リーフレットだった。学校での事前

学習等に使うのであれば、多少難解な内容であっても、館の概要が詰め込まれているので、利用価値が高いかもしれない。しかし、見学当日に児童・生徒へ渡しても、読まれることはほとんどない。まして内容は、教育的で面白みに欠ける。だから捨てられることが多かったのであらう。

こうした反省を踏まえ、新しい北海道博物館の館内リーフレットは、入館時に強制的に配布するのではなく、利用者が自由にラックから取得する方式とした。旧記念館時代の6種類のうち、中国語を簡体中文（中国）と繁体中文（台湾）の2つに分け、計7種類とした。内容に関しては、従来の発想を大胆に転換し、沿革や展示室内の情報を掲載せず、館内マップと諸施設の紹介に留めた。

旧記念館、他の博物館を含め、従来のリーフレットは、はじめて博物館を訪れる人が手にすることを前提に紙面を考えている。これからの時代の博物館は、伊藤寿朗が提唱したような「継続的活動」を基本とする第三世代の博物館であるとの立場に立ち（伊藤 1993）、北海道博物館では、何回も来館する利用者にリーフレットを配り続けるのを避けるため、自由取得方式の館内マップを主としたリーフレットを基本デザインした。展示の案内は、館内表示サイン（案内板）を充実させたこともあり、敢えて「館内リーフレット」には掲載しなかった。そもそも、入館時に配られるリーフレットをじっくり読んでから展示を観覧しはじめる利用者は、どの程度いるのであろうか。展示の案内は、「館内リーフレット」に掲載するよりは、PR用に作成して館外の諸施設に配置してもらう「広報用リーフレット」や、ウェブサイトの展示案内のページを充実させることで対応した方が、はるかに事前学習の役割が期待できる。ヨーロッパやアメリカの博物館のインフォメーションカウンターに置かれているリーフレットは、年間行事のスケジュールを記したリーフレット、館内マップ&利用案内のリーフレットの2種類が多い（後者に関しては外国語版が数種類作成される）。こうした前提に立って、はじめて北海道博物館を訪れる利用者が、館内の構造を理解できるよう、マップを基本とするリーフレットをデザインしたのである。

このような理念で、筆者は「館内リーフレット」を設計したのだが、リニューアルオープン以後、この「館内リーフレット」を手にとった利用者の評判はすこぶる悪いらしい。総合案内・チケット売場では、利用者から、館内マップではなく、展示室のマップはないのかとの質問が数多く寄せられているのが現状である。この点は、今後改善を図っていく必要がある。

一方、もう一つ、斬新に発想を転換してつくったのが子ども用の「館内リーフレット」である。そもそも、こうした類いの印刷物は、何のために配布されるのであ

うか。子どもにも館のあらまし、展示室の案内、利用方法を知ってもらうために、やさしいことばで説明しているのであらうか。

学校見学時に、児童・生徒に配布するためという考え方もあろう。しかし、そもそも、見学当日に児童・生徒に配布するリーフレットは必要なのであろうか。例えば、学校利用の大半を占める小学校4年生の社会科見学の一環での博物館見学では、各学校において、事前学習を実施するのが当たり前になっている。だから、「博物館とはどんなところなのか」、「展示室の中はどんなつくりになっているか」、「博物館ではどんな人が働いているのか」といった予習を目的に、事前学習における教材としてリーフレットを活用するのであれば、そのような印刷物を博物館で用意しておく必要がある。しかし、見学当日にリーフレットを配布しても、それを読んで学習する子どもはほとんどいないだろう。館内のあちこちや森林公園の遊歩道に捨てられるのが落ちである。

したがって、学校利用向けの印刷物については、また別に考えることとし、リニューアルオープンに際しては、子どもが純粋に楽しめるようなリーフレットをデザインして配置した方が良いと判断した。そこでできあがったのが、現行の子ども用「館内リーフレット」である〔246頁写真4〕。紙面の大半をワークシート化して、子ども、あるいは親子で楽しめる「ちゃれんがラリー」というイベントの教材として、はじめてからリーフレットを設計したのである。

「ちゃれんが」とは、北海道博物館の愛称「森のちゃれんが」であり、ラリーとは、クイズに答えながら館内を回るスタンプラリーのことである。子ども用の「館内リーフレット」には、展示室の1階・2階のマップを示した「総合展示室たんけんマップ」があり、各展示コーナーごとに、注目すべきポイントやクイズの問題が示されていて、内容や答えがわかったら□に✓（チェック）を入れるようになっている。クイズは、11問示されている。クイズ出題箇所それぞれスタンプを集める形式だと、スタンプとスタンプ台を各々に設置しなければならず、展示場の通路が狭くなるので、自ずと出題数に限界が出てしまう。また、旧記念館時代の「チャレンジシート」でも課題になったように、利用者がクイズ出題箇所の展示しか見てくれず、スタンプの収集が目的化してしまう懸念もある。そこで、クイズの出題とスタンプの付与は、1階と2階の職員常駐のインフォメーションカウンター「情報デスク」2か所で行うこととした。ラリー参加者には、「展示をよく見て、準備ができたなら情報デスクへ行こう」と呼びかけ、クイズは各デスクでそれぞれ1問を出題し、デスク常駐職員が出題する問題に正解できたらスタンプがもらえるという仕組みである。

参加者にとっては、どんな問題が出題されるのかわからないので、一応一通り展示を見てから、デスクの職員のを訪ねることになる。

また、このラリーには、上記のほかに、職員との交流が生まれるという利点もある。ラリー参加者の大半は、親子連れの子どもである。それもほとんどは、小学校低学年以下で、幼児の参加も多い。職員が子どもに問題を出題すると、親は子どもにヒントや助言をする。また、問題が不正解の場合は、「答えがわかる場所がすぐ近くにあるから、もう一度見てきてね」と呼びかけ、展示の再見学を促すこともできる。問題の出題やスタンプ付与の場に、職員が直接立ち会うことによって、ワークシートが展示場入口にただ置かれただけの学習とは異なる性格を加味することができる。

このラリーの本当のねらいは、子ども向けのイベントであることを謳っていながら、内実は親にも学んでもらうことであり、大人も楽しみながら展示を観覧してもらうことである。子どもの学びを口実にした親の学習ツールでもある。

「ちゃれんがラリー」という事業と一体化した子ども用「館内リーフレット」は、以上のように、補助教材としては一定の学習効果を生み出している。しかし、一方では、この「館内リーフレット」が、小学校以下の学校団体の見学時に配布されている現状もある。「子ども用館内リーフレット」には、展示室のマップが一応掲載されているし、展示室での注意事項等についても、平易なことばで記述しているので、「館内リーフレット」としての役割が全くないわけでない。しかし、学校見学の際に用いるリーフレットとは、遊びの要素が加味されたものではなく、館のあらまし、館内・展示室内の概要、注意事項等が記されたものの方が望ましい。したがって、学校見学のリーフレットは、別に準備しておく方が望ましいということになる。

ただし、リーフレットを別に作成しておくよりは、学校見学のワークシートと一体化させておくという考え方も一方である。学校団体のためのワークシートには、各学校における事前学習の実施を想定して、館の基礎的情報を盛り込んでおくことも検討に値する。

### 3 ワークシートをデザインする

#### (1) ワークシートの基本原則

学校教育との連携にかなり大きく運営方針を置いた博物館や、学校教育を意識した博物館では、学校がそれぞれのカリキュラムに沿って博物館の展示を使った学習ができるように、見学のワークシートを準備して、学校側に提供するという例が多くなっている（布谷 2005：

112）。各博物館が開設するウェブサイト上からワークシートのPDFファイルをダウンロードできる館があることは、前章で述べたとおりである。また、博物館におけるワークシート作成法については、木下周一氏等により概括されている（木下 2006、2009；木下・横山 2012）。

博物館が用意する学校団体向けワークシートを、小中高の教職員と連携しながら作成している館もある<sup>(5)</sup>。しかし、博物館職員が独自に作成して学校側へ提供している例も多い。一般に、博物館が独自に開発したワークシートは、展示の内容を問うものが多い。具体的な館名の例示は避けるが、中にはワークシートの対象が不明確で、きわめて難解なものもある。

総じて、学芸員等の博物館職員が中心となって開発したワークシートは、その博物館の展示の意図やねらいに沿ってつくられる。言い換えれば、博物館側の都合に合わせてワークシートが開発される。筆者ほか旧記念館時代に開発した「チャレンジシート」も、まさにそうである。利用者の学習目的や都合をあまり考慮に入れない。前章で述べたとおり、「チャレンジシート」は、学校団体の利用の都合には全く配慮していない補助教材であった。したがって、博物館が開発するワークシートは、教育理念や学習目標が不明瞭なことが多い。そこにあるのは、ワークシートが“展示内容の理解を支援するツール”である、というだけである。

学校教育の場で活用してもらうワークシートの設計には、次の2点への配慮が必要である。第一は、子どもの発達段階や学習目的に応じた段階分けである。すなわち、ワークシートの対象の明確化と目標の設定である。第二は、学校教育における学習目標やカリキュラム等を踏まえた段階分けである。博物館職員は、学校教育との連携強化を意識しながら、学校現場における具体的な授業展開の実情を知らないことが多い。博物館職員は「学習指導要領」を熟読し、学校現場で使われている教科書や副教材（副読本・資料集・ワーク等）の内容を把握することからはじめなければならない。

#### (2) ワークシートABCモデル—レベル設定の背景

これまでの博物館における学びの問題点は、博物館が、児童・生徒の学習目標を考慮しないまま、学校連携とそれに係る教材、及び教育プログラムの開発、さらには展示作成・改訂等を行ってきたことにある。児童・生徒が博物館で何を学んでほしいのかを、博物館の都合だけで考えてきたと言って良い。もちろん、各博物館には基本的な運営方針があり、展示や教育のねらいや意図がある。必ずしも利用者に迎合する必要はない、という考え方もあろう。

例えば、北海道の歴史は、縄文文化以降、続縄文文化、擦文文化と続き、13世紀ごろからはアイヌ民族の交易や彼らと和人の関わりやの歴史、そして近代以降の開拓の時代を迎える。これらの内容を理解するのは、社会科見学で博物館を訪れる小学校4年生には難しい。ましてや、小学校低学年や乳幼児は不可能に近い。小学生は、6年生になって、はじめて社会科で歴史を学び、教科書（授業）で「縄文文化」や「シャクシャイン」といった用語を習う。「擦文文化」、「松前藩」、「開拓使」、「北海道旧土人保護法」といった用語の意味や、それに係る基本的な歴史を習うのは、中学生になってからである。

このようなことは、敢えて言われてみれば、博物館職員は誰もが当たり前のことだと感じる。しかし、それでは、そのようなことを博物館として、きちんと位置づけて、利用者（児童・生徒や教職員等）に示しているのだろうか。結局のところ、博物館は、展示をつくって示すのは学芸職員をはじめとする博物館職員で、学ぶのは利用者の自由という姿勢なのである。こうした姿勢は、展示のみならず、普及行事のあり方、教育プログラム、教材開発等、ありとあらゆる博物館活動（とくに博物館教育の分野）に波及している。博物館での学び、すなわち博物館教育とは、往々にして闇雲、あるいは無計画である場合が多い。少なくとも、旧記念館と現在の北海道博物館の事業は、ほとんどがそうである。教職員が博物館をどう利用したら良いかわからない原因の一つは、学習段階に応じた学習目標のモデルを提示しない博物館側の姿勢にあると言って良い。

そこで、さまざまな批判を覚悟のうえで、とりあえず博物館と関わる人びとの学習段階を、A～Eにレベル分けしたモデルを提示してみることにした。すなわち、「レベルA」を幼稚園・保育園児・小学校1～2年生、「レベルB」を小学校3～6年生、「レベルC」を中学生・高校生、「レベルD」を大人（大学生以上）、「レベルE」を学芸員に分類して、各レベルの学習目標、及び涵養する能力を設定し、作成するワークシートのタイプを導き出す試みである。筆者は、発達心理学や学習心理学、教育学等の専門家ではない。そのため、以下に示す分類は、筆者の独断と偏見に満ちたモデルである。ただ、全く恣意的なものというわけではなく、レベルA～Cの分類は、社会科の授業や教科書に準拠したものである。ワークシートの対象がレベルAからCまでのため、このモデルを「ワークシートABCモデル」と以下呼ぶこととする。その概要を示したのが〔236頁表2〕である。

社会科の授業は、小学校3年生からはじまり、それ以前の小学校1・2年生は、「生活科」という別の教科のなかで、自分と自然・社会の関わりについて学ぶ。〔237～238頁表3〕は、小学校3年生以降の学習指導要領（社

会）と北海道内で採択されている社会科教科書の項目（博物館、あるいは北海道と関わるもの）の関係を示したものである。

現行の学習指導要領（平成29年度時点）では、小学校の「第3学年及び第4学年」において、「身近な地域」や「地域の人々の生活」等を学ぶことになっており、後者は「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」の3点が具体的な学習内容として示される（文部科学省 2008a：117-118）。北海道の各小学校で採択されている社会科教科書<sup>(6)</sup>には、「古い道具と昔の暮らし」<sup>(7)</sup>といった項目が設けられ、今から100年ぐらい前から現在までの人びとの暮らしの移り変わりや、暮らしの中で使われた道具を具体的に調べる学習を導き、博物館や郷土資料館等の見学を通して調べたことを年表等にまとめる授業展開を示している。

一方、「文化財や年中行事」については、「のこしたいもの、つたえたいもの」や「受けつがれる行事」<sup>(8)</sup>といった項目が設けられ、身近な地域に残っている古い建物や、祭り・お囃子、郷土芸能（踊り等）といった有形・無形の文化財の保存と継承（に取り組む人びと）を話題に取り上げている。

「第5学年」は「我が国の自然」「我が国の農業や水産業」「我が国の工業生産」「我が国の情報産業や情報化した社会」を扱うことになっている。その主な分野は地理（地誌学や人文地理学に近い範囲）である。教科書では、「わたしたちの国土」<sup>(9)</sup>といった大きなテーマのなかで、領土、地形、気候、自然条件と暮らしといった話題が取り上げられている。地誌学的内容を扱う「寒い土地の暮らし」は「あたたかい土地の暮らし」との選択制になっていて<sup>(10)</sup>、北海道の住宅の工夫や、道東の畑作や酪農、そしてアイヌの暮らしや文化の継承に関する記述が見られるのが特徴である。「あたたかい土地の暮らし」は、沖縄に焦点をあて、気候や家づくりの工夫、産業を取り上げるとともに、琉球の伝統文化の継承を取り上げている<sup>(11)</sup>。

「第6学年」は、中学校の「歴史的分野」や「公民的分野」につながるようなごく基礎的な日本の歴史や、政治、世界の中の日本の役割について学習する。教科書の歴史の部分は、縄文文化からはじまり、弥生、古墳、飛鳥、奈良と時代が下っていく。北海道に関係する事項は、江戸幕府の「鎖国」を扱う部分で登場する。具体的には、①北海道がかつて「蝦夷地」と呼ばれていたこと、②「蝦夷地」にはアイヌの人たちが住んでいて、交易を行っていたこと、③松前藩の不正な取り引きへの抗議としてシャクシャインの戦いが起こったこと、が記述され

る。蝦夷地と琉球をそれぞれ対比させるように、両者をコラム的に扱うのが特徴である。そのほか、明治新政府の政策を扱う部分で、北海道と沖縄がコラム的に扱われる。北海道に関しては、①蝦夷地を北海道と改め開拓が進むこと、②アイヌの人たちが日本語や日本式の名前を名のることを強いられ、土地や漁場の権利を失い生活が苦しくなっていたこと、が記述される。

中学生になると、社会科では3年間の間に「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」を学ぶ。北海道の歴史・文化・自然についても、さまざまな用語を習うようになる。〔239～242頁表4〕は、北海道内の中学校で採択されている教科書における、北海道や博物館資料に関する用語を抽出したものである<sup>(12)</sup>。

「地理的分野」は、人文地理学と地誌学的内容で構成されているが、北海道関係は、日本地誌的な部分で学ぶ。多雪寒冷な地域の特徴ある風土やくらし・産業について、歴史的な背景を絡めながら記述する。また、アイヌ文化や北方領土問題についてもページを割く。

「歴史的分野」は、人類の誕生から現代までを扱っているが、北海道関係は、所々で登場する。旧石器文化や縄文文化のほか、北海道独自の「続縄文文化」や「擦文文化」「オホーツク文化」といった用語も登場し、中世・近世・近代のそれぞれの項目で、北海道に関する歴史が断片的に登場する。琉球とアイヌ、あるいは沖縄と北海道を、見開き1単元でページを割くのが特徴的である。その他、全国的な動向として、大正・昭和の人びとのくらしや文化、差別の問題、領土問題を扱う。

「公民的分野」は、現代社会、倫理、政治、経済、国際社会を扱っているが、北海道関係は、アイヌ関連の記述が所々にある。「伝統文化」や「平等権」を扱うページのなかで、アイヌの伝統文化や、文化の保存や継承への取り組み、先住民としての権利等を学習する。ほかに北方領土問題も学習する。

以上のように、小中学校における社会科教科書の内容を精査すると、学校教育において、北海道の歴史や文化（とくにアイヌ文化）を本格的に学習しはじめるのは、中学生になってからであることがわかる。一方、「小学校学習指導要領」の各学年における目標の（3）には、社会的事象の観察や調査、各種の具体的資料の効果的な活用により、考える力や調べたことや考えたことを表現する力を育てることが掲げられている。そのため、小学校の社会科教科書でも、単なる知識の享受や事項の暗記を促すのではなく、調査から発表までの一連の「学び方」の例示を機軸に内容を構成している。

例えば、古い道具や昔のくらしについて調べたことを決めたら、みんなで話し合い、調べ方を決める。親戚や近所の人等、地域の人びとへインタビューしたり、図書

館やインターネットを使って必要な情報を集めたり、博物館や郷土資料館へ行って、実際に道具を見たり体験したり、学芸員に話を聞いたりする。写真の撮り方、メモのとり方、インタビューの仕方まで、教科書には丁寧にそのやり方が掲載されている。そして、気づいたことやわかったことをノートやカードにまとめたり、年表、地図、新聞、カルタ等をつくって、クラスで発表会を行ったりする。こうした一連の「調べ学習」が、小学校社会科の基本姿勢となっている。社会科と言えば、かつては暗記科目の代名詞であり、とくに歴史の授業は、事項の羅列と暗記の強要であった。教え方の上手な先生とは、事項と事項を関連付けたり、論理的に説明するのに長けた人であった。“流れで覚えろ”という謳い文句が教室の流行語であった。しかし今や、中学校や高校の教科書でも、「調べ学習」の方法の紹介にページを割く時代である。習った知識を記憶に定着させるだけでなく、それを土台に、考える力を醸成することを主眼としている。少なくとも小学校の社会科は、学習内容の定着より、学習方法の定着の方に重きを置いていると言える。

北海道博物館を利用する学校団体は、小学校4年生の社会科見学（教科学習）の一環として博物館を訪れ、その圧倒的多数がアイヌ文化の学習を展開する。これは、郷土学習用に配布される副読本の影響が大きいと考えられる。しかし、本を正せば、学習指導要領で示された小学校3・4年の「文化財や年中行事」の学習内容が、北海道の場合にはストレートに展開しづらいという事情が影響していると考えられる。郷土の祭りや伝統芸能の学習は、身近な地域に残っている文化の保存と継承の取り組みを想定している。学問的には、民俗学が研究対象とするようなものである。しかし、都市部等ではそのようなものが希薄であり、調べる対象が明確でない場合も多い。北海道の場合、このような郷土芸能は、主に明治以降の本州からの移住者が、各母村（郷土・移住元）から持ちこんで、北海道の風土に合わせて根付いたり、独自の発展を遂げたものがほとんどである。したがって、札幌等の都心部では、身近な地域に受け継がれた文化財や年中行事の学習の展開自体が困難である。

その一方で、北海道には、現在のアイヌ民族につながる人びとが旧石器文化のころから暮らし、江戸幕府や明治新政府による同化政策や、本州からの移住者の増加等により、アイヌ民族の生活基盤や文化は急速に失われたが、現在では伝統文化の保存と継承を積極的に取り組んでいる。アイヌ文化の伝統芸能にせよ、本州における和人の郷土芸能にせよ、残された文献記録からその具体的様相を遡れるのは江戸時代までであることが多い。北海道の小学生にとって、アイヌ文化の学習とは、自らがアイヌであるというアイデンティティを持つ人を除けば、

他者の文化の取り組みを扱うが、文化の保存・継承の学習における恰好の素材となる。小学校4年生におけるアイヌ文化の学習とは、北海道の地域性と大きく関わる現象だと言える。

以上のような状況を鑑みると、北海道の歴史や文化、あるいは自然に関する展示内容を、小学生にもきちんと理解してもらおう、という発想自体が、そもそも無意味なことが明らかである。もちろん、理解しようとする小学生の存在を拒むものではない。しかし、博物館側の教育方針は、小学生以下が博物館の展示内容を理解できなくて構わない、とする柔軟な考え方で構わない。むしろ博物館の展示見学を通じた物事の調べ方体験や、展示物探求による学びという行為自体の享受に重きを置くべきである。見学を通じて、博物館や北海道の歴史・文化・自然等に興味や関心を抱く子どもが一人でも生まれればそれで良い。学芸員は肩肘を張らず、柔軟で融通無碍な態度に徹するべきであろう。

### (3) ワークシートABCモデル

このように考えると、学習段階のレベルA～Cの設定が自ずと可能になる。先に述べたレベルA～Cの区分は、〈調べ学習〉を展開する小学校3～6年生をレベルBに設定して、それ以前をレベルA、それ以後の中学生・高校生をレベルCに設定したものである。

各レベルの学習目標、涵養する能力、作成するワークシートのタイプを整理したのが〔236頁表2〕である。以下、各レベルごとに、具体的なワークシートの理想像を述べてみたい。

#### ①レベルA

レベルA（小学校2年生以下）は、博物館に来てもらって、展示物を見たり、体験したりして、博物館のことを知ってもらうだけで良い。レベルAの子どもたちは、言語能力の習得過程にあり、物事の論理的思考が困難な段階にある。学芸員の意図する展示内容の理解は不可能である。むしろ、何かを見たとか、何かをやってみた、という経験が心に刻まれるだけで十分である。将来、それが博物館での体験だったと回想することができれば、なお望ましい。

博物館の展示は、そのほとんどが静的である。子どもは動かない物にあまり興味を示さない。じっくり一人で展示を見て、納得して、そして帰る子どもはまずいない。見たこと、やってみたことをその場で保護者や、教職員、博物館のスタッフ等に報告する。自身の体験自体が重要なのではなく、活動経験を誰かに話し他者に知ってもらうことが一番の目的である。レベルAとは、自立した学習活動、すなわち独学ができない段階である。

幼稚園や保育園の団体が展示場へ入ると、大抵はクラス・組ごとの一斉見学を展開する。小学校3～6年生に顕著に見られる見学スタイル（4～5人ぐらいでのグループ学習）ではない。教職員が列の先頭に立ち、子どもに語りかけながらの見学活動を展開する。自由見学だと、20～30人の子どもが展示場のあちこちに散らばってしまい、教職員の目が行き届かなくなる。そうすると引率教職員の数を増やさなければならないが、それができないさまざまな事情があるのであろう。

一斉見学は、引率教員に相当な負担を強いる。したがって、教職員の負担軽減のためにも、博物館側での補助教材の用意は、学校団体へのサービス向上に直結する。さらには、教職員の目の行き届く範囲内で実施可能なワークシートが望ましい。

例えば、展示物の写真をいくつか示し、見つけたら□に○を付けたり、チェックを入れたりするような探検型ワークシートや、展示物の絵を書かせるような観察型ワークシートが想定される。ある展示物と展示物が同じものか、異なるものかの区別は、レベルAの子どもでも十分可能である。例えば、ゾウの骨格標本ならば、牙が前に真っ直ぐ突き出ているのがナウマンゾウで、丸くなっているのがマンモスゾウなのかの区別は、幼稚園児でもわかる。また、さまざまな動物の剥製や、昆虫の標本を見て、どんな形や色なのかの区別もできるし、その特徴を絵に書くこともできる。展示物さがしや、展示物スケッチのワークシートは、レベルAの段階の子どもたちの学習に適した補助教材と言える。

また、小学校1～2年生になると、文字の読み書きが可能になる。その練習を兼ねた展示物の名前調べのようなワークシートでも対応可能となる。ただし、漢字の少ないひらがな・カタカナの展示物の名前中心に構成することへの配慮が必要である。

博物館側は、レベルAの子どもたちの教育目標として、展示物を見分ける力や、観察する力を伸ばすことを掲げてはどうだろうか。

近年、博物館は集客を伸ばそうと、学校団体への広報強化を図っている。博物館の存在自体を知らない学校団体が多いから、とにかく広報が先決との考えのみで実施する館もある。しかし、その甲斐あって利用者数が促進されても、そこで展開される学習活動に教育理念がなければ、一過性の利用で終わってしまうだろう。学校団体の継続的利用を目指すには、展示場における学習活動の展開事例まで含めた広報が重要となる。教職員に不満や徒労感のみが鬱積し、一回きりの利用で終われば最悪である。次回の利用は望めない。はじめての利用で、利用者がその博物館に興味・関心を抱くかどうかで、その館の運命は決まると言っても過言ではない。したがって、

教育戦略のない広報、すなわち博物館の教育部門の意向を視野に入れず、事務方が集客優先で先行するような広報は大いなる無駄であり、利用者、博物館職員双方にとって不毛である。広報には、社会教育施設としての博物館の意志（グランドデザイン）が必要である。チルドレンズ・ミュージアムのように、小学校低学年以下の子どものための利用に特化した展示になっていないなら、展示の使い方・学び方まで含めた広報が必要であり、そのための補助教材の開発は必須条件となる。

このような考えに基づいて開発したワークシートが〔247頁写真5〕である。

## ②レベルB

レベルB（小学校3～6年生）の学習目標は、博物館を活用して学習活動ができるようになることである。博物館のパンフレットやインターネットを活用して、その博物館がどんな活動をしているのか、どんな施設なのか、どんな人が働いているのか、展示場の中はどのようなになっているのか等を事前に調べて、見学当日に展示場で調べるテーマを決めるといった、見学計画の立案からはじめる。そして見学当日、調べるテーマに関する情報を、展示物の観察や解説パネルから収集し、気づいたこと、考えたことを書き留めていく。大事なことは、収集した情報の中身ではなく、館内の案内図の見方や、ノート・メモのとり方、学芸員や解説員等博物館スタッフへのインタビューの仕方等の実践である。そして、学校へ帰ってからは、博物館で調べたことを整理し、発表する。

先にも述べたとおり、博物館が作成するワークシートは、展示内容の理解に重きを置いたものが多い。気づかせたり、探させたり、クイズ的に問題を出す。しかし、〈調べ学習〉とは、調べるテーマの設定から解決、そして発表までの一連の流れを児童に任せるのが基本姿勢である。博物館が用意するワークシートのほとんどは、展示見学時の使用を前提にしており、事前学習や事後学習を包摂していない。事前・事後学習は、教職員が学校の教室等で行うものであるとされ、博物館の守備範囲として考慮されていないからである。しかし今後は、〔事前学習→実際の見学→事後学習〕を三位一体と捉え、学校利用の一連の流れをパッケージ化したワークシートの開発という考え方への転換が必要である。

教科書会社は、教科書のほかに、教職員のための「教師用指導書」を作成し、学習の流れや教室での板書例等までこと細かく授業展開の事例を提案する。博物館が学校教育との連携や、学校利用の促進に本腰を入れるのならば、三位一体型のワークシートを博物館が開発し、博物館利用や学習展開の事例をパッケージ化して教職員に提案していくべきである。これからは、博物館が教科書

会社のように、博物館利用のモデルを商品として売り込み、それを活用してもらう時代である。

例えば、レベルBのワークシートとして、次のような構成が考えられる。以下、事前学習、見学当日の学習、事後学習の3段階に分けて見ていく。

## 〔事前学習〕

事前学習の目的は、見学対象の博物館のことを知り、学習課題を設定し、見学の計画を立てることである。児童は、博物館のことを紹介した印刷物（パンフレット、リーフレット、ガイドブック等）やインターネットを使って情報を収集し、博物館や博物館で働く人たちの仕事について記入し、調べるテーマと調べ方を決める。調べ方とは、グループ学習における構成メンバーの名前と役割分担を明確にすることである。例えば、「アイヌ文化について調べる」というテーマを設定したグループでは、Aさんは「昔の暮らし」、Bさんは「現在の暮らし」、Cさんは「アイヌ語」、Dさんは「楽器と踊り」、Eさんは「写真係」といった役割分担が考えられる。

事前学習において必要な情報とは、①博物館とはどんなところか（→昔の人たちが使った道具を集めて展示しているところ。展示物を調べることができる。集めている物や調べることの具体的内容等）、②どんな人が働いていて、どんな仕事をしているか（博物館には学芸員がいて、集めた物について調べたり、展示をつくりたりしていること。展示場に解説員やボランティアといったスタッフがいて、お客さんの案内をしたり、展示の内容をわかりやすく説明したりしていること）、③展示場の中はどんな構造になっていて、どんな展示物が展示されているか（→どんなことを調べることができるか。また、それを調べるためには、展示室のどこで調べれば良いか）、の3つである。

とくに③が重要である。調べるテーマは、児童だけで決められないことも多く、教職員がいくつか候補をあげたり、強制的にテーマを与えたりする場合もある。しかし、教職員が博物館の展示を完全に把握しているわけではないので、与えられたテーマで十分な学習活動が展開できない場合も多い。とりわけ、これに係る教職員の事前学習や下見の負担は相当である。こうした事態を想定し、博物館側は、展示場で展開できる学習課題をいくつか提示すると、教職員に対し親切である。具体的な学習事例を展示物の写真とともに示すのである。例えば、「北海道の人びとの昔の冬の暮らしを調べよう」といったテーマを提示し、それに関連する「ストーブ」「除雪具」「こたつ」「火鉢」といった展示物の写真を示す。児童は、示された写真の展示物の名前や何に使う道具なのかを、見学日当日に調べることになる。これだけの情報

で、〈調べ学習〉は可能である。

少なくともこれまでの北海道博物館の姿勢は、「博物館として展示はしっかりつくりましたから、あとは自由に学習活動を展開してください」と、教職員に突き放してきた。しかし、学習展開の例示という一手間を博物館側がかけるだけで、教職員は展示場の使い方のヒントが得られ、学習活動の充実につながる。学校見学の手続き方法や教育プログラムの紹介が「利用の仕方」ではない。展示場の具体的な使い方の事例まで含めた情報提供が、博物館として教職員に提示すべき「利用の仕方」である。

調べるテーマは、教職員の児童への一方的な供与ではなく、児童同士の話し合いによる自主的な決定が望ましく、そのための仕掛けを博物館側で考えるべきである。博物館側は、小学生にもわかりやすいことばを使って、至極難解な博物館活動のしくみや展示内容を説明する補助教材を準備する必要がある。

学校団体が博物館の入口で見学の手続きを行うと、博物館側から館のあらましや展示場の案内等が記載された印刷物（リーフレット等）を渡される。中規模以上の博物館になると、子ども向けの印刷物を作成しているところも多い。元々、このような印刷物は、利用者への館内案内のために配布されるものである。しかし、こと学校利用に関しては、見学当日にこのような印刷物を配布しても、ほとんど意味を成さない。館のあらましや展示場の様子等は、各学校における事前学習での学習が望ましい。したがって、リーフレット等の館からの配布物は、学校団体への事前配布が望ましい。リーフレット等のデータをPDFファイルにより、ウェブサイトからダウンロードできるようにしておくことも必要である。

#### 〔見学当日〕

見学当日とは、児童が展示場において〈調べ学習〉を行う日である。ワークシートは、児童がそれを持ちながら、自主的に学習が行える構成であることが望ましい。

見学に訪れる学校のなかには、クイズ形式や穴埋め形式のワークシート（見学のしおり）を使って〈調べ学習〉を展開するところもある。しかし、本来の〈調べ学習〉とは、事前学習時に決めたテーマに基づくグループでの自主的（能動的）な学習活動であり、教職員や博物館から与えられた具体的（受動的）な課題を解決するものではない。したがって、本稿が示すような三位一体型のワークシートにおいては、調べたことを児童（グループ）がメモできるような、自由記述欄の多いワークシートの方が理想的である。

博物館では、下見や事前学習を実施する教職員から、展示室マップ（見取り図）のデータを要望されることがある。これは、ワークシートに展示室マップを示して、

そこに児童が自由に書き込んだり、そのマップを見ながら〈調べ学習〉をさせたりするためであろう。小学校3・4年生の社会科教科書には、探検コースや気づいたことをまちの白地図に書き込んだり、まとめたりする学習法や、スーパーマーケットの案内図を読み取って、見学計画を立てたりする学習法が例示されている。地図や案内図の活用は、小学校社会科の主要な学習目標である。こうした学校におけるカリキュラムにも博物館職員として目を向けるならば、展示案内図の読み取りや、調べたことの展示室マップへの記入といった学習は、社会科の応用学習としての効果も期待できるものである。

また、学校団体が博物館に到着すると、教職員が児童に対し、見学の心得として注意事項を伝えることが多い。「展示室で走り回らないこと」とか、「展示室で飲んだり食べたりしないこと」といった見学マナーである。こうした注意事項は、教職員から児童へ一方的に言い聞かせるよりは、ワークシートのなかで児童に自ら確認させた方が効果的である。

一方、博物館は、バリアフリー化や急増する外国人観光客への取り組みといったユニバーサルデザインを多分に意識した施設でもある。ピクトグラムの使用、車イス・ベビーカーの貸し出し、スロープ・身障者用駐車場・多目的トイレの設置、展示パネルの外国語表記等、誰でも障害なく利用できるような工夫が随所に見られるので、これを社会科の学習に生かさない手はない。学校団体にとっては、せっかくの校外学習の機会であるから、博物館見学の際に、こうした取り組みを学習できるように、ワークシートを工夫することも大事である。

以上のような考えを踏まえると、見学当日に使うワークシートとは、見学の注意事項の確認、展示室案内図の読み取り、自由記述欄の多い調べ学習ページ（展示室マップ付）、ユニバーサルデザインの工夫が学べるような構成になっているのが望ましい姿であると言える。

#### 〔事後学習〕

事後学習の目的は、見学のふりかえり・情報整理、及び発表の仕方の学習である。博物館で学んだ知識を単に受容するだけでなく、その知識や経験を児童自身のなかで消化し、自ら情報を発信する能力を涵養することが大事である。

そのためにはまず、博物館での見学が終了したら、見学してわかったこと、考えたこと、疑問に思ったこと（わからなかったこと）、もっと調べてみたいこと等を、児童が自分のことばでノートにまとめる作業を行わせると効果的である。これにより、児童自身のなかで、博物館見学の意義が反芻されることになる。博物館やお世話になった職員に対し、お礼の手紙やカード、寄せ書きを

書くという作業を実践する学校もあるが、これも同じことである。

発表の仕方はさまざまである。グループでの発表であれば、発表会を企画するのが基本である。発表のシナリオ、発表のために必要なツール、発表会までに準備しなければならないこと、発表会までのスケジュールや、グループでの役割分担（発表者、シナリオライター、ツールづくり等）をグループ内で相談することからはじまる。発表に際しては、発表者が淡々と話すだけという場合もあるだろうが、黒板にまとめたり、発表のための掲示物（ポスターや新聞等）や配布物（チラシやパンフレット等）を作成したりすることが多いだろう。

事後学習は、事前学習で決めたテーマに基づいて発表を行うことが多い。それでも構わないが、事前学習の段階において、成果物の作成を最終目標に掲げておく方法も考えられる。例えば、「アイヌ語かるた」、「くらしの道具うつりかわり年表」の作成や、博物館のことを紹介するパンフレットづくり等を最終目標に掲げておくのである。発表会では、制作過程や苦労した点、配慮した点等を中心に発表することになる。

また、グループ発表のほかに、個人の発表の機会を設けることも大事である。児童が自ら見学した博物館のことを、たくさんの人に知ってもらうために、博物館はどんなところなのかを一言で紹介したり、自分のおすすめの展示物を写真や絵とともに文章で紹介するような簡単なパンフレットづくりが考えられる。こうしたパンフレットを教室の後ろや廊下等に掲示するのである。このような児童によるパンフレットづくりは、児童自身の学習になるばかりでなく、そのパンフレットを目にする親等への博物館の宣伝にもつながり、博物館にとっては一石二鳥の効果を生み出すことになる。

以上のような考えを踏まえると、グループ発表については、形態ややり方がさまざまであるので、博物館としては、考えをまとめるワークシートと、個人が博物館を紹介する掲示用のパンフレットづくりのワークシートを用意しておくことが考えられる。

以上のような考えに基づいて開発したワークシートが〔248～249頁写真6〕である。

### ③レベルC

レベルC（中学生・高校生）の学習目標は、展示の内容（北海道の自然・歴史・文化）を理解できるようになることである。先に述べたように、展示物の観察と解説パネルの読解による展示内容の理解は、社会科で地理・歴史・公民を本格的に学ぶ中学生から可能である。博物館側も、小学生に敢えて展示を理解してもらおうとせず、中学生から理解してもらえれば良いという姿勢で対応す

べきである。

また、レベルCの段階では、展示物の見方を理解する力を身につけることも必要である。レベルBの段階では、展示物の観察を通して、各自が気づいたことや考えたことを書き留める、といった作業を行う。このような感想記述作業は、国語表現（自己表現）力の修練といった意味合いの強いものである。しかし、レベルCの段階になると、自己の考えだけでなく、他者の展示物に対する見方を理解することも大事になる。それは、他人の展示物に対する感想を知って、多様な見方があることを学ぶという意味ではない。一般的な展示物の見方、とりわけ展示をつくった学芸員の展示物に対する見方や展示意図を学ぶということである。

例えば、北海道博物館総合展示第1テーマの縄文文化の展示コーナーには、貝塚の地層断面が展示されている。展示物の説明キャプションには「縄文文化の食べ物を知るための資料」と記され、すぐ近くには「縄文文化食料カレンダー」という展示パネルがある。このカレンダーには、春・夏・秋・冬の各季節で縄文文化の人びとが食べた物が図示されている。

中学校の「歴史的分野」の教科書における縄文文化のページでは、このカレンダーを簡略化した図や縄文土器の資料写真、縄文文化の人びとのくらしをイメージ化したイラストが掲載され、縄文文化の内容が本文において記述されている。カレンダーは、教科書の記述を補う図として示されているだけである。縄文文化の人びとが当時どんな物を食べていたのかが、なぜわかったのかは、教科書には書いていない。

しかし、博物館において貝塚の地層断面を見れば、それは一目瞭然である。貝塚に捨てられたさまざまな遺物を詳しく調べることによって、それらのことがわかるわけである。それは学芸員や考古学者の発掘調査の成果によって明らかになったことである。貝塚の地層断面は、そのことを学ぶ学習教材である。しかし、展示場にただそれが置かれているだけでは、そのことを中学生・高校生が理解するのは難しい。だから、ワークシートのなかで、「これは何ですか」「この地層にはどんなものがありますか」等、たくさんの問いかけによって、生徒の展示物の内容理解を促進することが必要となる。レベルCの中学生・高校生の展示場学習のためのワークシートとは、展示内容の理解を手助けするような内容となる。そして、物に対する深い洞察力を涵養するものが理想である。

しかし、現状として、北海道博物館における中学生・高校生の学校利用は、小学校のような教科学習ではなく、修学旅行や宿泊研修での利用が多い。さらには、博物館近隣ではなく、郊外や本州からの学校団体の利用が多い。修学旅行の場合、2泊3日や3泊4日等、限られた日程で

さまざまな場所を訪問するため、例え博物館を利用して、全体の見学時間が1時間という場合が多い。

本来、中学校・高校の学校利用は、教科学習での利用が望ましいし、博物館側もそのような利用促進の努力を図るべきである。しかし、現実には、観光旅行的な利用が多い。ただし、当館へ下見に来る本州の旅行会社のコンサルタントや教職員からは、博物館見学の際に何か遣らせるものや配布するもの（パンフレットやワークシート等の教材）を求められることが多い。とくに本州からの学校団体は、北海道の歴史やアイヌ文化に関する学習を目的とした利用が多い。これは、北海道へ来るせっかくの機会だから、北海道ならではの学習をさせたいという想いからであろう。

このような要望に応えるためには、展示の内容をよりコンパクトに紹介し、事前・事後学習にも使えるようなガイドブック的なワークシート（パンフレット）が望ましいだろう。

明治以前の北海道の歴史とアイヌ文化は、北海道民だけが知っておくべき北海道地方のローカルな話題ではなく、日本人として知っておくべき話題である。そのため、歴史や公民の教科書でも、ある一定程度のページを割いて取り扱われる。北海道博物館の展示見学のメリットは、中学・高校の社会科教科書で断片的（細切れ）に扱われる事項を、見学を通じて、一つの歴史や文化の流れ（全体像）としてつかめることである。

第1テーマ「北海道120万年物語」は、北海道においてアイヌ民族と和人（本州からの移住者）の人口比が逆転する1890年代ごろまでを扱っている。すなわち、1890年代まで北海道において多数者（マジョリティ）であったアイヌ民族の歴史を扱っている。第2テーマ「アイヌ文化の世界」とこの第1テーマを合わせて見学すると、アイヌ民族の歴史と文化を学習することができる。見学時間が1時間程度と限られているのであれば、第1・第2テーマの見学のみに限定してもらうという見学モデルを、学校団体に対し思い切って提案してみる大胆な発想の切り替えも、博物館として必要なかもしれない。

このような考えに基づいて開発したワークシートが〔250～251頁写真7〕である。博物館や学芸員の仕事についても同時に学習できるようにページを割いている。

本稿では、第1・第2テーマ部分が掲載されているもののしか開発しなかったが、第3～5も必要であれば、後日また開発すれば良いだろう。また、中学校・高校の教科学習に対応したワークシートも、利用促進の努力とともに今後開発していくことが望ましいと考えている。

## 4 まとめにかえて

以上、学校団体の利用を念頭に置いたワークシート開発に関する基本的な考え方を述べてきた。あくまでも筆者の個人的な経験と考えから発展させて開発したものであり、これが本当に学校利用に望ましいものかどうかはわからない。ただし、批判を恐れていては前に進まない。さまざまな意見や批判をもとに、PDCAサイクルを用いて、常に改善を図っていく姿勢が大事である。

これまで、教職員は、各自自分の裁量で見学のしおり（ワークシート）を作成し、授業を実践してきた。その授業は数万、数十万通り以上ある。そのように考えると、博物館側が提供するワークシートも、考え方や展開の異なるものが、たくさんあってもかまわない。ワークシートを採用するのは現場の教職員なのであり、商品サンプルは多種多様であった方がよい。極端に言えば、その博物館に所属している学芸職員全員が各々ワークシートを開発しても一向にかまわないわけである。どんなワークシートが教職員にとって使いやすいものなのかはわからない。多種多様なサンプルのなかから、使いやすいもの、あるいは学習目的に叶ったものだけが淘汰されていくだろうし、マイナーだと思われるワークシートでも、どんな場面で役に立つかわからない。

本稿では、ワークシート開発の考え方を述べただけで、展示室における具体的な展開方法は論じなかった。実際のワークシートの利用方法は、「博物館教育プログラム研修会」や教職員への下見対応のなかで、展示場において実際に展示物を見ながら行うことが望まれる。

## 註

- (1) 旧記念館では、学校団体に対し、オリエンテーション、サービス講座、体験学習室行事の3種類の教育プログラムを提供していた。オリエンテーションとは、学芸員が10～15分で館や展示のあらましを説明するレクチャーである。サービス講座とは、学芸員が30～60分程度で特定のテーマ（「北海道開拓の歴史」「アイヌ文化」等）について説明する授業である。体験学習室行事とは、20分程度で解説員が実施し、「縄文文化のくらし」「アイヌの人たちのくらし」「昭和のくらし」等のテーマで2～3か月ごとにテーマを入れ替え、児童・生徒が道具に実際にさわりながら、そのテーマについて学ぶことができる参加体験型ワークショップである。これらのプログラムは、館内のグランドホール、講堂、体験学習室等で実施された。
- (2) 学校教育における教材とは教科書であり、問題集や図録等は補助教材にあたる。その考え方から言えば、博物館の展示場における教材とは、資料そのもの、もしくは解説パネルやネームキャプションであり、ワークシートは補助教材にあたる。教材と補助教材については、日本教材学会編（2016）を参照のこと。
- (3) 例えば、滋賀県立琵琶湖博物館のウェブサイト（2017年8月現在）には、「学校団体の皆様へ」というページが開設さ

れていて、「サポートシート」という名前のワークシートが10種類用意され、PDFファイルでダウンロードできるようになっている。テーマを絞って学習する「学習シート」6種類と、博物館全体を回る「発見シート」4種類である。後者はそれぞれ小学校3・4・5・6年生用であり、引率者向けの解説書も付いている。山梨県立博物館のウェブサイト(2017年8月現在)には、「教職員の方へ」というページが開設されていて、「かいじあむワークシート」という名前のワークシートが56種類用意されていて、やはりPDFファイルでダウンロードできる。4種類の小学校団体見学用ワークシートと、52の展示項目別ワークシートが用意されている。それぞれのワークシートに小学校低学年・中学年・高学年・中学校・高等学校といった「推奨学年」が表示されている。

- (4) アメリカ・サンフランシスコの科学館・エクスプロラトリウム(Exploratorium)の展示・プログラム部門のディレクターであったキャスリーン・マックリー(Kathleen McLean)は、マッカーシーが示した4MATシステムの4つのタイプの学習者について、「創造的学習者とは、意味を求め「なぜ」という疑問を持つ人である。このタイプの人は、人の話を聞いたり、考えを共有したり、直接経験に基づいて判断する。創造的学習者は、人間や文化に焦点を当てた展示にとくに興味を持ち、インタビューをビデオで流す展示や、解説スタッフと交流することによって、展示情報を吸収していく。分析的学習者は、「何か」ということに興味を持つ。彼らは、情報や事実を求め、専門家がどう考えているかを知りたがる。彼らが興味を持つのは、抽象的な概念や詳細なデータである。このタイプの人は、解説ラベル(長く、詳細な事実を詰め込んだもの)を読むのを好むだろう。常識的学習者は、「どのように作用するのか」という疑問を持つ。彼らは問題解決を好み、実践的な体験を通じて情報を吸収する。インタラクティブ展示は、彼らが情報を認識し処理するのを助けるものである。動的学習者は、「もし…だったら」という疑問を持つ。彼らは試行錯誤を通じて学び、自分で発見するのを好む。彼らは、順序に関係なく展示を見てまわり、説明を読む前にまずインタラクティブ展示を利用してみたいだろう」と紹介し、「マッカーシーのモデルを用いると、あらゆるタイプの学習者に何かしらの提供することができる」と述べる(マックリー 2003: 24-25)。
- (5) 例えば、山梨県立博物館では、小中高の教職員、指導主事、総合教育センターの研修主事によって構成される博物館活用研究会が、学校による博物館の活用について研究するなかで作成したワークシートもウェブサイト上に公開している。
- (6) 東京書籍と教育出版である。
- (7) 東京書籍の『新編新しい社会3・4上』では「古い道具と昔の暮らし」、教育出版の『小学社会3・4上』では「昔の道具と暮らし」である。
- (8) 東京書籍の『新編新しい社会3・4上』では「のこしたいもの、つたえたいもの」、教育出版の『小学社会3・4上』では「受けつがれる行事」である。
- (9) 東京書籍の『新編新しい社会5上』では「わたしたちの国土」、教育出版の『小学社会5上』では「わたしたちの暮らしと国

土」である。

- (10) 東京書籍の『新編新しい社会5上』の場合。教育出版の『小学社会5上』では「自然条件と人々の暮らし」のなかで「あたたかい地域の暮らし」と「寒い地域の暮らし」を選択することになっている。
- (11) 教育出版『小学社会5上』では、琉球王国の歴史と沖縄戦、及び基地問題についても取り上げている。
- (12) 「地理的分野」と「歴史的分野」は、東京書籍、教育出版、帝国書院の3種類の教科書が採択されている。「公民的分野」は東京書籍、教育出版の2種類である。

## 参考文献

- 青木豊 2000. 展示の理念. 加藤有次ほか編. 博物館展示法. 新版・博物館学講座 第9巻. 雄山閣出版.
- 新井重三 1981. 展示の形態と分類. 新井重三・佐々木朝登編. 博物館学講座7 展示と展示法. 雄山閣出版.
- 伊藤寿朗 1993. 市民のなかの博物館. 吉川弘文館.
- 北川芳男 1979. 総合博物館. 倉田公裕編. 博物館学講座8 博物館教育と普及. 雄山閣.
- 北川芳男 1986. 博物館とともに. 北川芳男氏退館記念誌刊行会.
- 木下周一 2006. ワークシート デザイン. 小笠原喜康;チルドレンズ・ミュージアム研究会編著. 博物館の学びをつくりだす—その実践へのアドバイス. ぎょうせい.
- 木下周一 2009. ミュージアムの学びをデザインする—展示グラフィック&学習ツール制作読本. ぎょうせい.
- 木下周一・横山千晶 2012. ワークシートなどの教材作成法. 小笠原喜康・並木美砂子・矢島國雄編. 博物館教育論—新しい博物館教育を描きだす. ぎょうせい.
- 並木美砂子 2012. 博物館での学習論. 小笠原喜康・並木美砂子・矢島國雄編. 博物館教育論—新しい博物館教育を描きだす. ぎょうせい.
- 日本教材学会編 2016. 教材学概論. 図書文化社.
- 布谷知夫 2005. 博物館の理念と運営—利用者主体の博物館学—. 雄山閣.
- 布谷知夫 2011. 博物館における教育I—学校教育との連携—. 吉田憲司編. 改訂新版博物館概論. 財団法人放送大学教育振興会.
- 長谷川栄 1981. 美術館・美術館学. 至文堂.
- 北海道開拓記念館 1986. 北海道開拓記念館10年のあゆみ. 北海道開拓記念館.
- 北海道開拓記念館 1994. 常設展示改訂事業報告. 北海道開拓記念館.
- K. マックリー 2003. 井島真知・芦屋美奈子訳. 博物館をみせる—人々のための展示プランニング—. 玉川大学出版部.
- 諸岡博熊 1990. MI変革する博物館第三世代. 創元社.
- 文部科学省 2008a. 小学校学習指導要領解説 社会編. 東洋館出版社.
- 文部科学省 2008b. 中学校学習指導要領解説 社会編. 日本文教出版.
- R. S. Miles 1982. The Design of Educational Exhibits. GEORGE ALLEN & UNWIN.

表1 学校団体利用者数と総合（常設）展示室入場者数の推移（年度別）

| 館 名           |      | 開拓記念館  |               |        |        |                                  |                        | 北海道博物館                  |         |
|---------------|------|--------|---------------|--------|--------|----------------------------------|------------------------|-------------------------|---------|
| 年 度           |      | 平成21年度 | 平成22年度        | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度                           | 平成26年度                 | 平成27年度                  | 平成28年度  |
|               |      | 2009   | 2010          | 2011   | 2012   | 2013                             | 2014                   | 2015                    | 2016    |
| 小学校           | 団体件数 | 208    | 221           | 232    | 225    | 205                              |                        | 202                     | 200     |
|               | 引率者数 | 802    | 811           | 651    | 915    | 853                              |                        | 848                     | 1,216   |
|               | 人数   | 13,293 | 13,506        | 15,349 | 14,942 | 13,202                           |                        | 12,008                  | 11,810  |
|               | 合計   | 14,095 | 14,317        | 16,000 | 15,857 | 14,055                           |                        | 12,856                  | 13,026  |
| 中学校           | 団体件数 | 14     | 12            | 18     | 24     | 11                               |                        | 46                      | 57      |
|               | 引率者数 | 43     | 58            | 67     | 106    | 49                               |                        | 232                     | 316     |
|               | 人数   | 713    | 714           | 825    | 1,441  | 631                              |                        | 2,543                   | 3,391   |
|               | 合計   | 756    | 772           | 892    | 1,547  | 680                              |                        | 2,775                   | 3,707   |
| 高等学校          | 団体件数 | 19     | 22            | 28     | 21     | 19                               |                        | 26                      | 36      |
|               | 引率者数 | 100    | 121           | 197    | 127    | 104                              |                        | 155                     | 224     |
|               | 人数   | 1,590  | 1,988         | 3,185  | 2,162  | 2,048                            |                        | 2,540                   | 2,483   |
|               | 合計   | 1,690  | 2,109         | 3,382  | 2,289  | 2,152                            |                        | 2,695                   | 2,707   |
| 幼稚園・保育園       | 団体件数 | 3      | 7             | 3      | 1      | 2                                |                        | 13                      | 23      |
|               | 引率者数 | 28     | 48            | 17     | 2      | 19                               |                        | 94                      | 111     |
|               | 人数   | 183    | 358           | 199    | 11     | 203                              |                        | 451                     | 887     |
|               | 合計   | 211    | 406           | 216    | 13     | 222                              |                        | 545                     | 998     |
| 特別支援学校・学級     | 団体件数 | 5      | 6             | 7      | 6      | 1                                |                        | 36                      | 16      |
|               | 引率者数 | 25     | 33            | 38     | 33     | 2                                |                        | 167                     | 81      |
|               | 人数   | 49     | 73            | 93     | 126    | 3                                |                        | 372                     | 161     |
|               | 合計   | 74     | 106           | 131    | 159    | 5                                |                        | 539                     | 242     |
| 合計            | 団体件数 | 249    | 268           | 288    | 277    | 238                              |                        | 323                     | 332     |
|               | 引率者数 | 973    | 1,038         | 932    | 1,150  | 1,025                            |                        | 1,329                   | 1,867   |
|               | 人数   | 15,779 | 16,566        | 19,558 | 18,556 | 16,084                           |                        | 17,542                  | 18,571  |
|               | 合計   | 16,752 | 17,604        | 20,490 | 19,706 | 17,109                           |                        | 18,871                  | 20,438  |
| 総合（常設）展示室入場者数 |      | 67,889 | 81,942        | 98,105 | 96,777 | 43,442                           |                        | 149,046                 | 108,374 |
| 備 考           |      |        | 指定管理者<br>制度導入 |        |        | 改修工事に<br>よる休館<br>(11/4<br>～3/31) | 改修工事に<br>よる休館<br>(1年間) | 北海道博物<br>館開館<br>(4/18～) |         |

※引率者とは、おもに教職員をさす。  
※被引率者とは、おもに児童・生徒をさす。

表2 博物館における利用者のレベル区分とワークシートモデル

| レベル | 対象                   | 学習目標                            | 涵養する能力                                                                                                                   | 作成するワークシートのタイプ                                                                            |
|-----|----------------------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| A   | 幼稚園・保育園児<br>小学校1～2年生 | 博物館に親しむ。<br>博物館のことを知る。          | 見分ける力→展示物を区別することができる。<br>観察する力→展示物を観察して、その特徴をとらえることができる。                                                                 | ①展示物さがし（探検型ワークシート）<br>②展示物名前調べ（探求型ワークシート）<br>③展示物スケッチ（観察型ワークシート）                          |
| B   | 小学校3～6年生             | 博物館を活用して学習活動（調べ学習）ができるようになる。    | 調べる力・まとめる力<br>・展示物を活用した学習活動ができるようになる（計画の立て方、案内図の見方、ノート・メモのとり方、情報整理の仕方、発表の仕方）。<br>・博物館・学芸員の仕事の内容や役割を調べることができる（インタビューの仕方）。 | 〈調べ学習〉に対応したワークシート<br>①事前学習用ワークシート<br>②見学当日用ワークシート<br>③事後学習用ワークシート                         |
| C   | 中学生、高校生              | 展示の内容（北海道の自然・歴史・文化）を理解できるようになる。 | 理解する力<br>・展示を見て、北海道の歴史・文化・自然の内容が理解できるようになる。<br>・博物館・学芸員の存在意義や必要性が理解できる。<br>洞察力→展示物（美術作品含め）の見方がわかるようになる。                  | 展示内容の理解を促進するためのワークシート（内容の理解を手助けするようなワークシート）<br>①教科学習型ワークシート<br>②観光対応型ワークシート<br>③鑑賞型ワークシート |
| D   | 大人（大学生以上）            | 自分で調べたいことを調べ、内容を深く探求することができる。   | 自ら学ぶ力（研究する力）                                                                                                             |                                                                                           |
| E   | 学芸員                  | 専門的研究を行うことができる。                 | 高度専門的研究能力<br>高度専門的研究能力を普及啓発する力                                                                                           | ※レベルA～Cに対応したワークシートを開発する立場                                                                 |

表3 小学校学習指導要領（社会）と社会科教科書の項目（博物館や北海道と関わるもの）

| 学年         | 種類     | 中項目                                                                                                                                                                                                                                   | 小項目                                                                                          | 具体的内容や用語                                                                                                                                                                                                                           |
|------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第3学年及び第4学年 | 学習指導要領 | 2 内容<br>(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。<br>ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子<br>イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事<br>ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例                                      |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|            |        | 3 かかわってきた人々の暮らし                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|            |        | 1 古い道具と昔の暮らし                                                                                                                                                                                                                          | 身のまわりの古い道具<br>古い道具を体験する<br>道具からくらしの様子を調べる<br>くらしのうつりかわり                                      | 昔のランプ／せんたく板とたらい／手回し洗濯機／全自動洗濯機<br>／昔のアイロン／いろり／かまど／ガスコンロ／ガステーブル／IH電気台                                                                                                                                                                |
|            | 東京書籍   | 2 のこしたいもの、つたえたいもの                                                                                                                                                                                                                     | ふるさとれきたんけんたい<br>古くからのこるたて物<br>昔からつづく祭り<br>古くからつたわるげいのう<br>れきしまつをつくろう<br>きょう土カルタをつくろう         | 古いたて物／お祭り／きょう土げいのう（おどり）                                                                                                                                                                                                            |
|            |        | 3 変わるわたしたちの暮らし                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|            |        | 2 昔の道具とくらし                                                                                                                                                                                                                            | 昔の道具をさがそう<br>郷土資料館をたずねて<br>体験しよう、昔のせんたく<br>おじいさん、おばあさんが子どものころ<br>お父さん、お母さんが子どものころ<br>年表をつくろう | かま／おひつ／せんたく板とたらい／ひしゃく／石うす／きね／千歯こぎ／かまど／お手玉、けん玉など昔の遊び道具／ローラーのついたせんたく機／二そう式せんたく機／かんそう機のついたせんたく機／ラジオ／白黒テレビ／井戸／めんこ／かんけり／テレビゲーム／ゴムとび／一輪車／まんが／プラモデル／マンション／音楽やビデオのプレーヤー／レコードプレーヤー／ラジカセ／コンパクトディスク（CD）／CDプレーヤー／けいたい音楽プレーヤー／ガスこんろ／IHクッキングヒーター |
|            |        | 1 受けつかがれる行事                                                                                                                                                                                                                           | まちの昔をさがそう<br>祭りやおはやしを受けつぐ人たち<br>まちに伝わる年中行事                                                   | 祭り／おはやし／古い建物<br>／年中行事                                                                                                                                                                                                              |
|            | 教育出版   | 2 内容<br>(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。<br>ア 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土<br>イ 国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活<br>ウ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ<br>エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止 |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|            |        | 1 わたしたちの国土                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|            |        | 世界の中の国土                                                                                                                                                                                                                               | 日本の国土の広がり                                                                                    | 北海道／北方領土（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）                                                                                                                                                                                                         |
|            |        | 1 国土の地形の特色                                                                                                                                                                                                                            | 国土のいろいろな地形                                                                                   | 天塩山地／北見山地／日高山脈／根釧台地／十勝平野／石狩平野／石狩川                                                                                                                                                                                                  |
|            |        |                                                                                                                                                                                                                                       | 日本の火山の広がり                                                                                    | 有珠山                                                                                                                                                                                                                                |
|            |        | 3 国土の気候の特色                                                                                                                                                                                                                            | 日本の気候と四季の変化                                                                                  | 流水／スキー／雪遊び／そめいよしの／えぞやまざくら                                                                                                                                                                                                          |
|            |        | 4 寒い土地のくらしー北海道十勝地方ー                                                                                                                                                                                                                   | 十勝地方の家やくらしのくふう                                                                               | 玄関フード／断熱材／二重まど／不凍せん／温水パイプ                                                                                                                                                                                                          |
|            |        |                                                                                                                                                                                                                                       | 十勝地方の自然を生かした農業                                                                               | 輪作／てんさい（さとうだいこん）／じゃがいも／大型の機械（じゃがいもを収穫する機械→トラクター）                                                                                                                                                                                   |
|            |        |                                                                                                                                                                                                                                       | 十勝地方の寒さを生かす取り組み                                                                              | しばれフェスティバル／自然条件／バルーンマンション                                                                                                                                                                                                          |
|            |        |                                                                                                                                                                                                                                       | 守ってきた文化を受けつぐ                                                                                 | 先住民族／アイヌ／チセ／カムイ（神）／アットウシ／チボロウシイモ／チェブケリ／アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議／帯広カムイトウボボ保存会                                                                                                                                                          |
|            |        | 1 わたしたちのくらしと国土                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|            |        | 1 日本は世界のどこにある？                                                                                                                                                                                                                        | 日本の領土と周りの国々                                                                                  | 北海道／北方領土（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）／樺太（サハリン）／千島（クリル）列島／ウルップ（得撫）島                                                                                                                                                                            |
|            |        | 2 日本の地形と気候                                                                                                                                                                                                                            | さまざまな地形                                                                                      | 北見山地／日高山脈／十勝平野／石狩平野／根釧台地／天塩川／石狩川／十勝川                                                                                                                                                                                               |
|            |        |                                                                                                                                                                                                                                       | 変化の大きい日本の自然                                                                                  | そめいよしの／えぞやまざくら                                                                                                                                                                                                                     |
|            |        | 3 自然条件と人々のくらし（寒い地域のくらし）                                                                                                                                                                                                               | 寒さのきびしい北海道                                                                                   | 真冬日／二重まど／換気口／灯油タンク／二重の玄関／断熱材／水道の水ぬきせん／ストーブ／除雪作業／砂箱                                                                                                                                                                                 |
|            |        |                                                                                                                                                                                                                                       | 寒い気候を生かした産業                                                                                  | 酪農／サイロ／じゃがいも／てんさい／GPS（全地球測位システム）                                                                                                                                                                                                   |
|            |        |                                                                                                                                                                                                                                       | 豊かな大自然を求めて                                                                                   | 流水／リスキー／雪まつり／アイヌ／エコツアー／世界自然遺産／ラムサール条約                                                                                                                                                                                              |
|            |        |                                                                                                                                                                                                                                       | もっと知りたい自然とともに生きるアイヌの人たちのくらし                                                                  | アイヌ語／伝統的なくらし／コタン（村）／ほしたさけ／カムイ／カムイノミ／チセ（家）／伝統的なおどり                                                                                                                                                                                  |

| 学年   | 種類     | 中項目                                                                                                                     | 小項目               | 具体的内容や用語                                  |
|------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------------------------------------------|
| 第6学年 | 学習指導要領 | 2 内容                                                                                                                    |                   |                                           |
|      |        | (1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。 |                   |                                           |
|      |        | ア 狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子が分かること。その際、神話・伝承を調べ、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。                                        |                   |                                           |
|      |        | イ 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること。                                             |                   |                                           |
|      |        | ウ 源平の戦い、鎌倉（かまくら）幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること。                                                                |                   |                                           |
|      |        | エ 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことが分かること。                                                                   |                   |                                           |
|      |        | オ キリスト教の伝来、織田（おだ）・豊田（とよみ）の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。                           |                   |                                           |
|      |        | カ 歌舞伎（かぶき）や浮世絵、国学や蘭学（らんがく）について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。                                                            |                   |                                           |
|      |        | キ 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。                                               |                   |                                           |
|      |        | ク 大日本帝国憲法の発布、日清（にっしん）・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。                                            |                   |                                           |
|      |        | ケ 日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。               |                   |                                           |
|      | 東京書籍   | 1 日本の歴史                                                                                                                 |                   |                                           |
|      |        | 1 縄文のむらから古墳のくにへ                                                                                                         | 三内丸山遺跡と縄文のむら      | たて穴住居／縄文土器／貝塚／つり針                         |
|      |        | 7 江戸幕府と政治の安定                                                                                                            | キリスト教の禁止と鎖国       | 蝦夷地／アイヌ／蝦夷錦／シャクシャイン／松前藩                   |
|      |        | 8 町人の文化と新しい学問                                                                                                           | 新しい学問・蘭学          | 伊能忠敬／測量／量程車／象限儀／羅針盤                       |
|      |        | 9 明治の国づくりを進めた人々                                                                                                         | 若い武士たちが幕府をたおす     | 日米和親条約／日米修好通商条約                           |
|      |        |                                                                                                                         | 大久保利通と明治新政府の改革    | 北海道／開拓使／北海道庁                              |
|      |        |                                                                                                                         | 板垣退助と自由民権運動       | 「明治維新と北海道・沖縄」の細項目→蝦夷地／北海道／アイヌ／差別          |
|      |        | 10 世界に歩み出した日本                                                                                                           | 伊藤博文と国会開設、大日本帝国憲法 | （北海道では1890年の選挙実施から10年後に選挙権があたえられたこと）      |
|      |        |                                                                                                                         | 中国やロシアと戦う         | 日露戦争／講和会議／樺太（サハリン）南部                      |
|      |        | 12 新しい日本、平和な日本へ                                                                                                         | コラム 約100年前の小樽港    | にしん漁／北防波堤／小樽運河／オルゴール堂                     |
|      |        |                                                                                                                         | これからの日本を考えよう      | 伝統文化／アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議／アイヌ文化フェスティバル事業 |
|      | 教育出版   | 1 日本の歴史                                                                                                                 |                   |                                           |
|      |        | 1 国づくりへの歩み                                                                                                              | 大昔の暮らしをさぐる        | 竪穴住居／縄文土器／矢じり／土偶                          |
|      |        | 6 幕府の政治と人々の暮らし                                                                                                          | 鎖国のもとでの交流         | アイヌ／松前藩／交易／シャクシャイン／漁場                     |
|      |        | 7 新しい文化と学問                                                                                                              | 文化を支えた産業と交通       | 北前船／昆布／にしん                                |
|      |        |                                                                                                                         | 新しい学問を発展させた人々     | 伊能忠敬／測量                                   |
|      |        | 8 新しい時代の幕開け                                                                                                             | 黒船が来た             | 日米和親条約（下田と函館の2港を開く）／日米修好通商条約              |
|      |        |                                                                                                                         | 新しい政府をつくる         | 蝦夷地／北海道／屯田兵／アイヌ                           |
|      |        | 9 近代国家に向けて                                                                                                              | 日露戦争後の日本と世界       | ロシアとの講和条約／樺太（サハリン）の南半分                    |
|      |        | 11 平和で豊かな暮らしを目指して                                                                                                       | これからの日本とわたしたち     | 北方領土、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島                     |

表4 中学校社会科教科書における北海道と博物館資料に関する用語

| 分野    | 教科書  | 小項目                      | 頁       | 具体的内容や用語                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------|------|--------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地理的分野 | 東京書籍 | 日本の領域の特色を見てみよう           | 133     | 北方領土／歯舞諸島／色丹島／国後島／択捉島／日ソ共同宣言                                                                                                                                                                                                                      |
|       |      | 日本列島を構成する島々ー竹島・北方領土・尖閣諸島 | 134-135 | 北方領土／歯舞諸島／貝殻島／納沙布岬／色丹島／国後島／択捉島／爺爺岳／からふとます／さげ／サンフランシスコ平和条約／領有権／千島列島                                                                                                                                                                                |
|       |      | 北海道地方の生活の舞台              | 252-253 | カルデラ／国立公園／濃霧／克雪／利雪／楽雪／流水                                                                                                                                                                                                                          |
|       |      | 北海道地方の人々の営み              | 254-255 | 開拓／かんづめ工場／炭鉱／エネルギー革命／夕張市／先住民族／アイヌの人たち／開拓使／屯田兵／酪農／アットゥシ／アイヌ文様                                                                                                                                                                                      |
|       |      | 自然の制約に適応する人々の工夫          | 256-257 | 〔二重窓〕／断熱性の高いかべ／温水パイプ／ロードヒーティング／縦型の信号機／〔ななめ看板〕／二重とびら／石油タンク／地下街／活火山／有珠山／洞爺湖温泉／砂防ダム／防災マップ（ハザードマップ）／世界ジオパーク／北洋漁業／松前檜山屏風／植林／日高こんぶ                                                                                                                      |
|       |      | 自然の制約や社会の変化を乗り越える        | 258-259 | 泥炭地／品種改良／客土／ローム層／輪作／酪農／地産地消／太陽光発電所（メガソーラー）                                                                                                                                                                                                        |
|       |      | 自然の特色を生かした観光産業           | 260-261 | さっぽろ雪まつり／砕氷観光船／世界遺産（自然遺産）／知床／エコツーリズム                                                                                                                                                                                                              |
|       |      | アイヌの人たちと多文化共生            | 262-263 | 先住民族／ヒグマ／カムイ／イオマンテ／アットゥシ／アイヌ古式舞踊／サロレンチカプリムセ／鶴の舞／和人／北海道旧土人保護法／同化政策／アイヌ文化振興法／アイヌ民族博物館／少数民族                                                                                                                                                          |
|       | 教育出版 | 日本の領土をめぐる                | 130-131 | 国境／北方領土／千島列島／ウルップ島／択捉島／歯舞諸島／色丹島／国後島／ビザなし訪問／領土問題／日魯通好条約／樺太・千島交換条約／サンフランシスコ平和条約／日ソ共同宣言                                                                                                                                                              |
|       |      | 自然改変の歴史をもつ地域             | 238-239 | 混交林／カラマツ／針葉樹／防風林／人工林／天然林／蝦夷地／アイヌ民族／和人（アイヌ民族でない日本人）／開拓使／屯田兵／アイヌ語に由来する地名                                                                                                                                                                            |
|       |      | 厳しく長い冬の暮らし               | 240-241 | ロードヒーティング／融雪槽／流水／流水観光／地球温暖化／千島海流（親潮）／海霧／泥炭地（湿原）／風力発電／ソーラーパネル／バイオマス発電／太陽光発電／桜前線／谷地坊主                                                                                                                                                               |
|       |      | 日本の食料基地として               | 242-243 | 稲作／減反政策／火山灰地／酪農／タンチョウ／シマフクロウ                                                                                                                                                                                                                      |
|       |      | 「とる漁業」から「育てる漁業」へ         | 244-245 | 人工ふ化増殖事業／〔人工授精〕／シマフクロウ／ヒグマ／北洋漁業／排他的経済水域／国連海洋法条約／母川国主義／栽培漁業／養殖／昆布／アイヌ民族／ダム／スリット／砂防ダム／缶詰加工／母船／砂防ダム／群来／網元／にしん御殿／かずのこ                                                                                                                                 |
|       |      | 豊かな自然を生かした観光             | 246-247 | さっぽろ雪まつり／火山／温泉／エゾシカ／野鳥／洞爺湖温泉／有珠山／災害／防災／ハザードマップ／ラムサール条約／釧路湿原／エコツアー／環境教育／農業体験／世界自然遺産／知床／YOSAKOIソーラン祭り／外国人観光客／乳搾り／高架木道                                                                                                                               |
|       |      | アイヌの人たちの文化にまなぶ           | 248-249 | 知里幸恵／チカッ美恵子／アイヌ・モシリ／カムイ（神）／アラモレウ（一つの渦巻き）／ウレンモレウ（相対する渦巻き）／シッケウモレウ（角になっている渦巻き）／オホヤンケ（角をとがらせる）／和人／開拓／同化政策／北海道旧土人保護法／アイヌ文化振興法／先住民族の権利に関する国連宣言／アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議／伝統文化／アイヌ語地名／アイヌ文様／刺繍／モレウ（ゆるやかに曲がる）／アイウシ（とげのある）／トンコリ（五弦琴）／ウコウタ（輪唱）／ムックリ（口琴）／ウボポ（歌） |
|       | 帝国書院 | 日本の領域と領土問題               | 126-127 | 北方領土／国後島／択捉島／色丹島／歯舞諸島／サンフランシスコ平和条約／千島列島／ビザなし交流／日露通好条約／樺太・千島交換条約／ポーツマス条約／排他的経済水域                                                                                                                                                                   |
|       |      | 北海道地方の自然環境               | 256-257 | 択捉島／北方領土／温泉／観光資源／亜寒帯（冷帯）／梅雨／季節風／親潮／濃霧／流水／アザラシ／有珠山／洞爺湖／二重の玄関／二重サッシ／断熱材／灯油タンク／除雪／防雪柵                                                                                                                                                                |
|       |      | 厳しい自然環境を克服した稲作の歴史        | 258-259 | 泥炭地／客土／アイヌの人々／開拓使／土地改良／屯田兵／移住者／石炭／原野／冷害／品種改良／ゆめぴりか／ななつぼし／減反政策／転作／アイヌ文様／刺繍／〔アイヌ語地名〕／カムイ（神）                                                                                                                                                         |
|       |      | 大規模化してきた畑作や酪農、漁業         | 260-261 | 畑作／輪作／加工食品／酪農／濃霧／生乳／粉乳／乳牛／北洋漁業／排他的経済水域／沿岸漁業／沖合漁業／養殖業／栽培漁業／水産加工場                                                                                                                                                                                   |
|       |      | 歴史や北国の自然を生かした観光業         | 262-263 | 倉庫群／炭鉱／さっぽろ雪まつり／ニセコ／リゾート／パウダースノー／スキー／スノーボード／外国人観光客／知床／釧路湿原／生態系／高架木道／エコツーリズム／旭山動物園／世界遺産                                                                                                                                                            |

| 分野    | 教科書  | 小項目              | 頁       | 具体的内容や用語                                                                                                                                                                                       |
|-------|------|------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 歴史的分野 | 東京書籍 | 日本列島の誕生と縄文文化     | 32-33   | マンモス／ナウマンゾウ／オオツノジカ／野牛／打製石器／黒曜石／土器／縄文土器／縄文文化／縄文時代／貝塚／たて穴住居／抜歯／屈葬／土偶／三内丸山遺跡                                                                                                                      |
|       |      | 弥生文化と邪馬台国        | 34-35   | 稲作／弥生文化／金属器／弥生土器                                                                                                                                                                               |
|       |      | 東アジアとの交流         | 80-81   | 蝦夷地／アイヌ民族／交易／十三湊／安藤氏／和人／館／コシヤマイ／道南十二館／志苔館／宋銭                                                                                                                                                   |
|       |      | 鎖国下の対外政策         | 118-119 | 蝦夷地／アイヌ民族／和人／千島列島／樺太（サハリン）／黒竜江／松前藩／さけ／こんぶ／シャクシャイン／蝦夷錦／夷酋列像                                                                                                                                     |
|       |      | 田沼の政治と寛政の改革      | 128-129 | 田沼意次／蝦夷地の調査／俵物／ラクスマン／大黒屋光太夫／レザノフ／樺太（サハリン）／北方探検／最上徳内／近藤重蔵／間宮林蔵                                                                                                                                  |
|       |      | 新しい学問と化政文化       | 130-131 | 伊能忠敬／シーボルト                                                                                                                                                                                     |
|       |      | 外国船の出現と天保の改革     | 132-133 | ラクスマン来航／漂流民／大黒屋光太夫／レザノフ来航                                                                                                                                                                      |
|       |      | 開国と不平等条約         | 154-155 | ペリー／日米和親条約／函館／開国                                                                                                                                                                               |
|       |      | 江戸幕府の滅亡          | 158-159 | 戊辰戦争／五稜郭                                                                                                                                                                                       |
|       |      | 国境と領土の確定         | 168-169 | 領土／樺太（サハリン）／樺太・千島交換条約／千島列島／日露和親条約／北方四島／択捉島／得撫島／歯舞群島／色丹島／国後島／蝦夷地／開拓／北海道／開拓使／屯田兵／囚人／アイヌの人々／先住民／アイヌ民族／同化政策／チセ・丸木船                                                                                 |
|       |      | 広がる社会運動と普通選挙の実現  | 208-209 | アイヌ民族／解放運動／北海道アイヌ協会／同化政策                                                                                                                                                                       |
|       |      | 新しい文化と生活         | 210-211 | 活字文化／新聞／週刊誌／総合雑誌／文学全集（円本）／岩波文庫／童謡／童話／活動写真（映画）／蓄音機／レコード／歌謡曲／ラジオ放送／大衆小説／野球／小林多喜二／ガス／水道／電気／欧米風／文化住宅／洋食／洋服／キャラメル／セーラー服／モダン・ガール（モガ）                                                                 |
|       |      | 北海道とアイヌ民族の歴史     | 234-235 | アイヌ民族／蝦夷地／同化政策／擦文土器／擦文文化／鉄製品／漆器／蝦夷ヶ島／和人（本州の人々）／十三湊／安藤氏／コシヤマイ／蠣崎氏／松前氏／松前藩／和人地／商場／商場知行制／シャクシャイン／場所請負制／にしん漁／干鰯／昆布／いりこ／干しあわび／俵物／高田屋嘉兵衛／択捉島／樺太／松前奉行／日米和親条約／函館／北海道／開拓使／北海道旧土人保護法／アイヌ文化振興法／松前檜山屏風／蝦夷錦 |
|       |      | 占領下の日本           | 242-243 | 北方領土／歯舞群島／色丹島／国後島／択捉島／復員／引きあげ／闇市／青空教室／墨ぬり教科書                                                                                                                                                   |
|       |      | 民主化と日本国憲法        | 244-245 | 北海道アイヌ協会                                                                                                                                                                                       |
|       |      | 日本の領土をめぐる問題とその歴史 | 252-253 | 北方領土／日露和親条約／択捉島／得撫島／千島列島／歯舞群島／色丹島／国後島／日ソ中立条約／日ソ共同宣言／北方領土の日                                                                                                                                     |
|       |      | 日本の高度経済成長        | 254-255 | 高度経済成長／テレビ／洗濯機／冷蔵庫／自動車／スーパーマーケット／水洗トイレ／高速道路／過疎化                                                                                                                                                |
|       | 教育出版 | 日本列島のあけぼの        | 24-25   | 旧石器時代／ナウマンゾウ／マンモス／オオツノシカ／打製石器／土器／縄文土器／磨製石器／弓矢／釣り針／縄文時代／竪穴住居／土偶                                                                                                                                 |
|       |      | 楽浪の海中に倭人あり       | 26-27   | 稲作／弥生土器／金属器／弥生時代                                                                                                                                                                               |
|       |      | 北と南で開かれた交易       | 74-75   | 蝦夷地／アイヌ民族／先住民族／アイヌモシリ／樺太（サハリン）／元軍／朝貢／毛皮／和人／館／交易／コシヤマイ／十三湊／安藤氏／鮭／こんぶ／オホーツク文化／擦文文化／クジラ／ブタ／ラッコ／アイヌ文化／志苔館／銅銭                                                                                       |
|       |      | 開かれた窓            | 110-111 | アイヌ民族／松前藩／交易／毛皮／和人／シャクシャイン                                                                                                                                                                     |
|       |      | 将軍のおひざもと、天下の台所   | 114-115 | 蝦夷地／さけ／にしん漁／松前檜山屏風                                                                                                                                                                             |
|       |      | 繰り返される政治改革       | 122-123 | 田沼意次／蝦夷地の開拓／ロシア／国後地方／蜂起                                                                                                                                                                        |
|       |      | 「読み・書き・そろばん」の習い  | 124-125 | 伊能忠敬／測量／シーボルト                                                                                                                                                                                  |
|       |      | 内と外の危機           | 142-143 | ラクスマン／根室／松平定信／蝦夷地／外国船打払令／伊能忠敬／近藤重蔵／間宮林蔵／レザノフ／プチャーチン                                                                                                                                            |
|       |      | たった四はいで夜も眠れず     | 144-145 | ペリー／日米和親条約／函館／日米修好通商条約                                                                                                                                                                         |
|       |      | 万機公論に決すべし        | 156-157 | 戊辰戦争／榎本武揚／五稜郭                                                                                                                                                                                  |

| 分野    | 教科書  | 小項目              | 頁       | 具体的内容や用語                                                                                                                                                        |
|-------|------|------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 歴史的分野 | 教育出版 | ザン切り頭をたたいてみれば    | 162-163 | クラーク／お雇い外国人／札幌農学校／北海道／開拓／アイヌの人たち／蝦夷地／開拓使／土族／屯田兵／先住民族／北海道旧土人保護法                                                                                                  |
|       |      | 智識を世界に求めて        | 164-165 | 樺太・千島交換条約／樺太（サハリン）／千島列島                                                                                                                                         |
|       |      | アイヌの文化を伝えた人々     | 171     | 蝦夷地／北海道／移住／開拓／先住民族／同化政策／知里幸恵／金田一京助／近文／金成マツ／アイヌ語／モナシノウク／銀のしずく降る降るまわりに／ユカラ（ユカラ）／アイヌ神謡集                                                                            |
|       |      | デモクラシーのうねり       | 206-207 | アイヌの人たち／差別／解放／北海道アイヌ協会                                                                                                                                          |
|       |      | モボ・モガの登場         | 208-209 | モボ・モガ／職業婦人／鉄道／市電／地下鉄／西洋化／洋服／洋食／洋菓子／文化住宅／インテリ／ラジオ／モダン（近代）／ガス／水道／電灯／キャラメル／ミルクチョコレート／ドロップ                                                                          |
|       |      | 独立から復興へ          | 244-245 | サンフランシスコ平和条約／千島列島／南樺太／北方領土問題／日ソ共同宣言／歯舞群島／色丹島／国後島／択捉島                                                                                                            |
|       |      | 高度経済成長の光とかげ      | 250-251 | 高度経済成長／テレビ／電気洗濯機／自動車／中流意識／過疎化／団地                                                                                                                                |
|       | 帝国書院 | 人類がたどった進化        | 12-13   | 旧石器時代／打製石器／磨製石器／ナウマン象／おおつのじか                                                                                                                                    |
|       |      | 縄文から弥生への変化       | 22-23   | 氷期／土器／縄文土器／たて穴住居／貝塚／土偶／三内丸山遺跡／縄文時代／縄文文化／稲作                                                                                                                      |
|       |      | ムラがまとまりクニへ       | 24-25   | 黒曜石／ヒスイ／腕輪／交易／続縄文文化／オホーツク文化／擦文文化／アイヌ文化                                                                                                                          |
|       |      | 海をこえてせまる元軍       | 62-63   | 二つの蒙古襲来／元軍／樺太（サハリン）／アイヌの人々                                                                                                                                      |
|       |      | 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易  | 70-71   | アイヌ文化／蝦夷地／アイヌの人々／樺太／沿海州地方／交易／十三湊／安藤氏／鮭／昆布／毛皮／和人（本州の人々）／館／コシヤメイン／千島列島／オホーツク文化／擦文文化／擦文土器／くま像／蝦夷／先住民／勝山館                                                           |
|       |      | 琉球王国とアイヌの人々への支配  | 110-111 | 蝦夷地／松前藩／アイヌの人々／和人／和入地／にしん／鮭／昆布／毛皮／米・木綿／鉄製品／千島列島／樺太／中国東北部／交易／シャクシャイン／にしん漁／松前檜山屏風／オムシャ／日高アイヌオムシャ之図／干鮭100匹／シャクシャイン像                                                |
|       |      | 琉球とアイヌの人々の暮らし    | 112-113 | 神／アイヌ文様／チセ／コタン／ポロ（大きい）／ナイ（川）／トナカイ／ラッコ／ユカラ（ユカラ）／ユカラ（神謡）／松前藩／蝦夷錦／クルーゼン＝シュテルン／世界周航図／木の皮でつくられたアイヌの衣服／銀の滴降る降るまわりに／知里幸恵／アイヌ神謡集／イオマンテ／蝦夷島奇観                            |
|       |      | 昆布ロードと北前船        | 122-123 | 北前船／西廻り航路／蝦夷地／廻船問屋／米／なわ／むしろ／酒／にしん／昆布／鮭／鱒／にしんを加工した肥料／俵物／昆布ロード／薩摩藩／富山の薬売り／薬種／船絵馬／バイ船／近江の商人／昆布まきかまぼこ／昆布のおにぎり／鯖寿司／クーブイリチー／高田屋嘉兵衛／黄連／じゃ香／柳行李／売薬さん／懸場帳／いりこ／干しあわび／ふかひれ |
|       |      | くり返される要求と改革      | 128-129 | 田沼意次／俵物／蝦夷地／松平定信／ロシア船／海防                                                                                                                                        |
|       |      | 江戸の庶民が担った文化政文化   | 131-133 | シーボルト／伊能忠敬／測量／和算／地図／蝦夷地                                                                                                                                         |
|       |      | 日本を取りまく世界情勢の変化   | 146-147 | ロシア／漂流民／間宮林蔵／蝦夷地／幕領／大黒屋光太夫／ラクスマン／レザノフ／ゴローニン／測量／高田屋嘉兵衛／最上徳内／近藤重蔵／間宮林蔵／伊能忠敬／樺太                                                                                    |
|       |      | 黒船来航の衝撃と開国       | 150-151 | ペリー／日米和親条約／函館                                                                                                                                                   |
|       |      | 江戸幕府の滅亡          | 152-153 | 五稜郭の戦い／戊辰戦争                                                                                                                                                     |
|       |      | 新たな外交と国境の画定      | 166-167 | 国境／領土／国民／樺太・千島交換条約／樺太島／占守島／得撫島／千島列島／日露通好（和親）条約                                                                                                                  |
|       |      | 沖縄・北海道と近代化の波     | 168-169 | 蝦夷地／北海道／開拓／開拓使／土族／屯田兵／移住／平民／囚人／アイヌの人々／日本国民／北海道旧土人保護法／雑居／強制移住／〔アイヌ語地名〕／アイヌ学校／対雁                                                                                  |
|       |      | 移住と開拓が進む北海道      | 170-171 | 開拓使／北海道／開拓／黒田清隆／クラーク／土族／西南戦争／白石区／屯田兵／伊達市／集団移住／囚人／官営工場／麦酒醸造所／開拓使のマーク（北極星）／炭鉱／琴似屯田兵村／札幌農学校／アメリカ式の農法／晩成社／集治監／開拓使札幌本庁舎／北海道庁舎                                        |
|       |      | 社会運動の高まりと普通選挙の実現 | 206-207 | アイヌの人々／北海道アイヌ協会／北海道旧土人保護法／解放                                                                                                                                    |

| 分野        | 教科書  | 小項目            | 頁       | 具体的内容や用語                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------|------|----------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 歴史的<br>分野 | 帝国書院 | 近代都市が生み出した大衆文化 | 209-211 | 好景気／小林多喜二／蟹工船／北洋漁業／労働者／サラリーマン／職業婦人／大衆文化／新聞／総合雑誌／円本／文庫本／美術展覧会／文化住宅／ガス／水道／電気／ラジオ放送／洋食／百貨店／映画／アイヌ民族／立ち流し／台所／モダンガール（モガ）／モダンボーイ（モボ）／アイヌ神謡集／知里幸恵／ユカラ／神謡                                                                                     |
|           |      | 日本の領土と近隣諸国     | 246-247 | 北方領土／サンフランシスコ平和条約／樺太／千島列島／日露通好（和親）条約／樺太・千島交換条約／ポーツマス条約                                                                                                                                                                                |
|           |      | 経済成長による日本の変化   | 250-251 | 高度経済成長／石炭／石油／炭坑／閉山／過疎化／石狩炭田／夕張炭鉱／釧路炭田                                                                                                                                                                                                 |
|           |      | 大衆化・多様化する戦後の文化 | 253-255 | 高度経済成長／三種の神器／電気洗濯機／電気冷蔵庫／テレビ／余暇／団地／中流意識／文化の大衆化／ダイニングキッチン／DK／水洗トイレ／カラーテレビ／クーラー・乗用車／新三種の神器（3C）                                                                                                                                          |
|           |      | グローバル化が進む世界    | 256-257 | 先住民族／人権／北海道アイヌ協会／復権／アイヌ文化振興法／北海道旧土人保護法／アイヌの人々を先住民族とすることを求める国会決議                                                                                                                                                                       |
| 公民的<br>分野 | 東京書籍 | 暮らしに生きる伝統文化    | 18-19   | 伝統文化／アイヌ文化／北海道／樺太（サハリン）／千島列島／先住民族／アイヌ／文化財保護法／有形／無形／古式舞踊／サロレンチカプリムセ（鶴の舞）／アットウシ／チェブオハウ                                                                                                                                                  |
|           |      | 多文化共生を目指して     | 20-21   | 多文化共生／異文化理解／優劣／差別／偏見                                                                                                                                                                                                                  |
|           |      | 平等権            | 46-47   | 平等権／共生社会／差別／個人の尊厳の原理／アイヌ民族／北海道／樺太（サハリン）／千島列島／北海道開拓／同化政策／民族固有の生活や文化／アイヌ文化振興法／アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議／アイヌ語弁論大会（イタカンロー）／アイヌ語ラジオ講座／アイヌ語地名／アイヌ民族音楽会／アイヌ文化ふれあいまつり／マレウレウ                                                                       |
|           |      | アイヌ民族と先住民族の権利  | 66-67   | 人権／アイヌ民族／先住民族／移住者／北海道／樺太（サハリン）／千島列島／北海道開拓／屯田兵／移住／本州などから移住してきた人々（和人）／北海道旧土人保護法／アイヌ文化／アイヌ語／独自の生活様式や文化／北海道アイヌ協会／野村義一／国際先住民年／民族の尊厳と権利／アイヌ文化振興法／アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議／アイヌ政策推進会議／先住民族問題／人種差別撤廃条約／子ども（児童）の権利条約／少数民族／先住民族の権利に関する国連宣言／萱野茂／アイヌ語 |
|           |      | 国際社会における国家     | 170-171 | 国民／領域／主権／領土／領海／領空／排他的経済水域／公海／公海自由の原則／北方領土／サンフランシスコ平和条約／千島列島／歯舞群島／色丹島／国後島／択捉島                                                                                                                                                          |
|           |      | 日本の外交の現状と課題    | 194-195 | 北方領土                                                                                                                                                                                                                                  |
|           |      | 日本の領土をめぐる問題の現状 | 196-197 | 領土／北方領土／歯舞群島／色丹島／国後島／択捉島／開拓／日ソ共同宣言／東京宣言／北方領土問題／鳩山一郎／ブルガーニン／細川護熙／エリツイン                                                                                                                                                                 |
|           |      | 参考法令集          | 228-229 | アイヌ文化振興法（アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律）／アイヌ民族／アイヌ文化                                                                                                                                                                           |
|           | 教育出版 | 差別をしない、させない    | 48-49   | アイヌ民族／北海道／樺太（サハリン）／千島列島／明治政府／北海道旧土人保護法／同化策／アイヌ文化振興法／アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議／萱野茂／アイヌ語／古式舞踊／アイヌ文化フェスティバル／ユネスコ／無形文化遺産                                                                                                                      |
|           |      | 国際社会の「理想と現実」   | 178-179 | 北方領土／元島民                                                                                                                                                                                                                              |
|           |      | 国際社会を構成する国家    | 180-181 | 主権国家／主権／主権平等の原則／領域／国民／領土／領海／領空／排他的経済水域／公海／歯舞群島／色丹島／国後島／択捉島／北方領土／日ソ共同宣言／日ソ平和条約                                                                                                                                                         |
|           |      | 日本の外交のいま       | 188-189 | 北方領土／北方四島／納沙布岬／歯舞群島／色丹島                                                                                                                                                                                                               |
|           |      | 諸法令集           | 231     | アイヌ文化振興法                                                                                                                                                                                                                              |

写真1 チャレンジシート レベル1 (2つ折) 上: 表面、下: 中面

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>6 テーマ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> </div> | <p>北海道開拓記念館</p> <p style="text-align: right;">チャレンジレベル ★☆☆☆☆</p> <h1 style="text-align: center;">チャレンジシート</h1> <p style="text-align: right;">No.1</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">             これじょうで<br/>さがしてみよう！         </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">             いくつ<br/>さがすことが<br/>できるかな？         </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>見つけたら<br/>口はチェック<br/>してね。</p> </div> |
| <p>7 テーマ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> </div> | <p>1 テーマ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">  <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> </div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

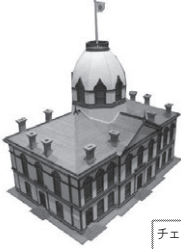
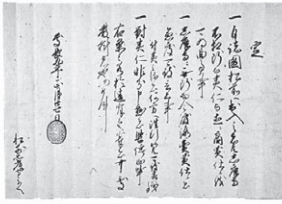
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2 テーマ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> </div> | <p>4 テーマ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> </div> |
| <p>3 テーマ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> </div> | <p>5 テーマ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> <div style="text-align: center;"> <p>チェック</p> <input type="checkbox"/> </div> </div> |

写真2 チャレンジシート レベル2 (2つ折) 上: 表面、下: 中面

もんだい4



くら〜いところで男の人が何かしているよ。  
さあ、いったい何をしているのかな？



- ① 宝をさがしている。  
② 石炭をほっている。  
③ 雪かきをしている。



2がいのら〜アたいに  
あつたぶうな気がるケロ

こたえ

北海道開拓記念館

チャレンジレベル ★★☆☆☆

# チャレンジシート

No.2



もんだい1



うわあ〜、大きな2頭のゾウの化石があるよ。  
よ〜く見ると、大きさもちがうし、キバもちがうね。  
ナウマン象はどっちかな？

①



②



こたえ

もんだい2



記念館には、アイヌの人たちの着物や道具が  
いっぱい展示してあるんだ。  
それは次のなかのどれかな？

①



②



③



④



⑤



⑥



ヒント

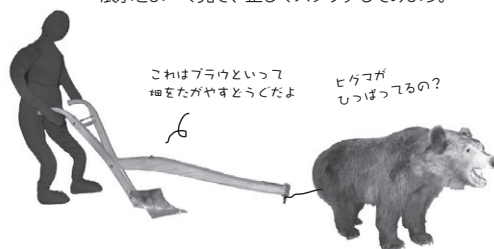
こたえは  
3つあるよ

こたえ

もんだい3



下の図は、畑を耕している様子をあらわしているよ。  
でも何か変だな。どこがまちがっているのかな？  
展示をよ〜く見て、正しくスケッチしてみよう。



こたえは2がいにあるよ。

写真3 チャレンジシート レベル3 (2つ折) 上: 表面、下: 中面

### 6 テーマ

これは「三等列車」っていうんだよ。よく見ると、リングをもっている女の人がいるね。このリングはどこでとれたリングかな？



- ① じぶんのいえ
- ② 近所の農家
- ③ 青森の農家

かいわを  
よくきくんだケロ

こたえ

## 北海道開拓記念館

チャレンジレベル ★★☆☆☆

# チャレンジシート

No. 3

クイズにこたえて  
たのしく学ぼう！

わかんない  
ところは  
私にきいてネ！

あわつたら、  
たいがくで  
まってるよ〜



### 7 テーマ

むかしの電化製品がいっぱいあるね〜。あれ〜、ひとつだけちがうものがまじっているなあ…。それはどれかなあ？








こたえ

### 1 テーマ

うわあ〜、大きな2頭のゾウの化石があるよ。よく見ると、大きさもちがうし、キバもちがうね。それぞれ何という名前かな？




こたえ

こたえ

### 2 テーマ

これはアイヌの人たちのおうちだ。よく見ると、横のオリのなかに何が動物がいる！その動物は次のどれだ？



ながにいたらう不つは  
アイヌの人たちにとって  
神様だったんだよ

このへんに  
オリがあるよ

こたえ

① ウマ    ② クマ    ③ イヌ

### 4 テーマ

ここにも、そこにも、あそこにも…。おなじようなマークがいっぱい！ さあ、そのマークはどんな形かな？ わかったら、こたえにその形をかいてみよう！




こたえ

### 3 テーマ

ゲゲゲ!!! なんたこのデカイ毛皮は!? さあ、この毛皮は何の動物の毛皮かな？





トドだよ〜ん    わしはクマでんじゃあ



クマちゃんじゃないよ

こたえ

### 5 テーマ

す、すご〜い! 見てごらんよ。魚がたくさんとれてるよ〜! さあ、この魚の名前はな〜んだ？



こたえ

写真4 北海道博物館 子ども用リーフレット (3つ折) 上: 表面、下: 中面

### まだまだ、たのしいことがある？ また博物館に来てみよう！

北海道博物館では、親子で楽しめる季節のイベントを  
いろいろ企画しています。  
どんなことをやっているのかを詳しく知りたいときは、パンフレットやウェブサイトなどを見てみましょう。  
イベント情報は、博物館の展示のページからわかります。

**ウェブサイト**  
http://www.museumpark.hokkaido.jp

**Twitter**  
https://twitter.com/hokkaido\_museum

**今日も博物館に来てくれてありがとう！  
また来てね！**

### 開催時間

9:30～12:00 (5・9月)  
9:30～16:30 (10・4月)  
※開館時間の30分前まで来館いただけます。

**休館日**  
毎月第1日曜日・祝日・観音の祭日は開館の平日  
毎年12月17日(12月23日～1月1日)  
この期間中は休館となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

**料金 (観覧料)**  
一般600円(500円)、大学生・高校生300円(200円)  
※13歳以下は100円以上の観覧料。  
※北海道博物館は、入館料に観覧料を別々に取ります。  
※中学生以下、65歳以上の2人は無料、入館料に観覧料のみ  
かかる(団体予約、観覧料別、観覧料別など) まで  
お断りください。

※7月17日 道民の日 は無料

**住所** 〒004-0005 札幌市東区東山手15-2  
北海道博物館 電話 / 011-898-0466 FAX / 011-897-1865  
設置者/北海道博物館文化・スポーツ部 設置者/一財団法人北海道文化財団  
2017.04

### 交通案内

●バス  
札幌駅から「バス・ミナミ」のバス(山手線)で  
約15分、バス停「山手線」下車、徒歩約5分  
札幌駅から「バス・ミナミ」のバス(山手線)で  
約15分、バス停「山手線」下車、徒歩約5分  
札幌駅から「バス・ミナミ」のバス(山手線)で  
約15分、バス停「山手線」下車、徒歩約5分

### ほっかいどうはくぶつかん 北海道博物館を たんけんしてみよう！

日本館 | こども

### 総合展示のご案内

総合展示では、北海道の自然・歴史・文化を  
5つのテーマで紹介しています。

**1F**

- フロア 北と南の出会い
- 第1テーマ 北海道120万年物語
- 第2テーマ アイヌ文化の世界

**2F**

- 第3テーマ 北海道120万年物語
- 第4テーマ わたしたちの時代へ
- 第5テーマ 生き物たちの北海道

### まだまだ、たのしいことがある？ また博物館に来てみよう！

北海道博物館では、親子で楽しめる季節のイベントを  
いろいろ企画しています。  
どんなことをやっているのかを詳しく知りたいときは、パンフレットやウェブサイトなどを見てみましょう。  
イベント情報は、博物館の展示のページからわかります。

**ウェブサイト**  
http://www.museumpark.hokkaido.jp

**Twitter**  
https://twitter.com/hokkaido\_museum

**今日も博物館に来てくれてありがとう！  
また来てね！**

### 開催時間

9:30～12:00 (5・9月)  
9:30～16:30 (10・4月)  
※開館時間の30分前まで来館いただけます。

**休館日**  
毎月第1日曜日・祝日・観音の祭日は開館の平日  
毎年12月17日(12月23日～1月1日)  
この期間中は休館となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

**料金 (観覧料)**  
一般600円(500円)、大学生・高校生300円(200円)  
※13歳以下は100円以上の観覧料。  
※北海道博物館は、入館料に観覧料を別々に取ります。  
※中学生以下、65歳以上の2人は無料、入館料に観覧料のみ  
かかる(団体予約、観覧料別、観覧料別など) まで  
お断りください。

※7月17日 道民の日 は無料

**住所** 〒004-0005 札幌市東区東山手15-2  
北海道博物館 電話 / 011-898-0466 FAX / 011-897-1865  
設置者/北海道博物館文化・スポーツ部 設置者/一財団法人北海道文化財団  
2017.04

### 交通案内

●バス  
札幌駅から「バス・ミナミ」のバス(山手線)で  
約15分、バス停「山手線」下車、徒歩約5分  
札幌駅から「バス・ミナミ」のバス(山手線)で  
約15分、バス停「山手線」下車、徒歩約5分  
札幌駅から「バス・ミナミ」のバス(山手線)で  
約15分、バス停「山手線」下車、徒歩約5分

### ほっかいどうはくぶつかん 北海道博物館を たんけんしてみよう！

日本館 | こども

### 総合展示のご案内

総合展示では、北海道の自然・歴史・文化を  
5つのテーマで紹介しています。

**1F**

- フロア 北と南の出会い
- 第1テーマ 北海道120万年物語
- 第2テーマ アイヌ文化の世界

**2F**

- 第3テーマ 北海道120万年物語
- 第4テーマ わたしたちの時代へ
- 第5テーマ 生き物たちの北海道

写真5 チャレンがワーク レベルA 左上・右上：展示物さがし、左下・右下：展示物名前調べ

北海道博物館 (A1) チャレンがワーク

月 日 年 組  
なまえ

展示場でさがしてみよう みつけたら□に✓をいれよう

スタート

ゴール！

第1テーマから第5テーマまで順番どおりに見るには  
どうすればよいのだろう？  
スタートからゴールまで線をひいてつなげてみよう！

北海道博物館 (A1) チャレンがワーク

月 日 年 組  
なまえ

展示場でさがしてみよう みつけたら□に✓をいれよう

クイズにチャレンジ！

- アイヌの人たちが神さまとしてたいせつにした生き物を2つさがそう。
- もともと北海道にはすんでいなかった生き物を4つさがそう。

北海道博物館 (A2) チャレンがワーク

月 日 年 組  
なまえ

第1テーマ 展示物のなまえをしらべよう □になまえをかこう

|    |    |    |
|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  |
| 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 |

の皮  
の皮  
100本  
札幌本庁舎  
の制服

北海道博物館 (A2) チャレンがワーク

月 日 年 組  
なまえ

第4テーマ 展示物のなまえをしらべよう □になまえをかこう

|    |    |    |
|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  |
| 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 |

クイズにチャレンジ！

- 「3種の神器」とよばれた道具を3つさがそう。
- お米に関係のある道具を2つさがそう。

## てんじょうようす しら 展示場の様子を調べよう

### 1 てんじょうよう あんないす 展示場で案内図をたしかめよう

#### ● 1階にはどんな展示があるのだろうか？

第1テーマ ほっかいどう 北海道 ばんねんもの 万年物語

※北海道の古の歴史がわかるどころだ

第2テーマ ぶん化 文化の世界

※アイヌ民族の昔と今のくらしがわかるどころだ

#### ● 2階にはどんな展示があるのだろうか？

第3テーマ ひみつ 北海道の秘密

※今から100年前のふしとくらしがわかるどころだ

第4テーマ じだいへ わたしたちの時代へ

※今から60年前のふしとくらしがわかるどころだ

第5テーマ ちのち たちの北海道

※自然の生き物や自然のことがわかるどころだ

1F

2F

### 2 あんないす 案内図にあるマークをたしかめ、何のマークかを調べよう

※ わかったら □ に ✓ をつけよう

|                                                   |                                                      |                                                 |
|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> <small>きせき</small> すごい案内 | <input type="checkbox"/> <small>しりょうぶく</small> 情報デスク | <input type="checkbox"/> <small>トイレ</small> トイレ |
| <input type="checkbox"/> <small>おみやげ</small> 土産   | <input type="checkbox"/> <small>おしり</small> 椅子       | <input type="checkbox"/> <small>おしり</small> 椅子  |

### 3 てんじょうよう き 展示場で気をつけなければならないこと

※ 守るルールに ✓ をつけよう

|                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> <small>しんじ</small> 展示物にさわらない                                                           | <input type="checkbox"/> <small>おしり</small> ときかてある展示物はどんでんざつてみよう！                                                                                                                             |
| <input type="checkbox"/> <small>メモ</small> メモはえんぴつ <small>ツブ</small> を使う<br>ボールペンや色ペンは使えません                     | <input type="checkbox"/> <small>おき</small> ほかのお客さんに迷惑 <small>めいわく</small> をかけない<br><input type="checkbox"/> <small>あしり</small> 走りまわらない <input type="checkbox"/> <small>おとこ</small> 大きな声でさわがない |
| <input type="checkbox"/> <small>のみ</small> 飲んだり食べたりしない<br><small>のみ</small> 水を飲むときは展示場の外 <small>そと</small> に出よう | <input type="checkbox"/> <small>おとこ</small> 写真は自由にとることができます<br>ただし <small>おとこ</small> フラッシュは使わないでね                                                                                            |

## 1階を調べよう

きづいたことを下のマップに書きこんでおこう

**①** 上のマップの **1** ~ **4** には、どんな展示物があるかを調べよう

**1**

**2**

**3**

**4**

**②** アイヌ民族の昔と現在のくらしのちがいについて調べよう

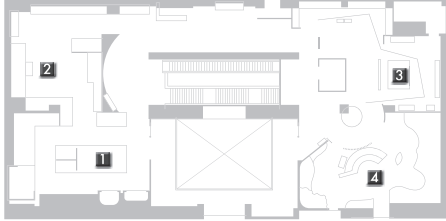
むかし  
昔のくらし

いま  
現在のくらし

写真6-2 チャレンジワーク レベルB 左上・右上：見学当日用、左下・右下：事後学習用

2階を調べよう

気づいたことを下のマップに書きこんでおこう



1 上のマップの 1～4 には、どんな展示物があるかを調べよう

|   |   |
|---|---|
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |

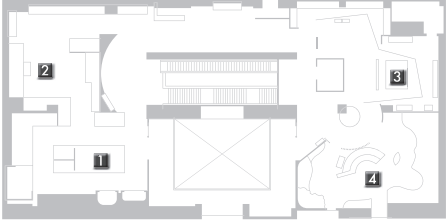
2 みんなで協力して調べよう

気づいたことをメモしよう

調べること

2階を調べよう

気づいたことを下のマップに書きこんでおこう



1 上のマップの 1～4 には、どんな展示物があるかを調べよう

|   |   |
|---|---|
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |

2 昔の人たちが使った古い道具について調べよう

- 道具を観察し、絵をかこう
- 道具の名前、使われていた時期、気づいたことをメモしよう
- 道具が使われていたころのくらしの様子を考えてみよう
- 今の道具とどこがちがうのかを考えてみよう

ノートにまとめよう

博物館を見学してわかったこと、考えたこと、疑問に思ったこと（わからなかったこと）、もっと調べたいことをノートにまとめてみよう。

● 見学してわかったこと

.....

.....

.....

.....

.....

● 考えたこと

.....

.....

.....

.....

.....

● 疑問に思ったこと（わからなかったこと）

.....

.....

.....

.....

.....

● もっと調べたいこと

.....

.....

.....

.....

.....

博物館を紹介するパンフレットをつくろう

北海道博物館のことを、もっとたくさんの人に知ってもらうために、博物館やおすすめの展示物を紹介するパンフレットをつくってみよう。

● 北海道博物館はこんなところ！



.....

.....

.....

.....

● おすすめの展示物はこれだ！



.....

.....

.....

.....

.....

小学校 年 組 なまえ

写真7-1 ちゃれんがワーク レベルC (A4版24頁) 上: 2~3頁、下: 4~5頁



① 収蔵庫に保管されている資料。資料は種類や形態ごとに分類され棚に配架されます。

② 資料情報をパソコンに入力している学芸員。名称や年代などの情報を入力し、資料の写真を1点ずつ撮影し、データベースに登録します。

③ 展示場で神楽のお面を展示する学芸員

④ 展示場でトークイベントを行う学芸員

## 博物館学芸員の仕事

### 学習課題

北海道博物館ではどんな活動が行われているのでしょうか。学芸員はふだんどんな仕事をしているのでしょうか。



⑤ 収蔵庫で資料の状態を確認する学芸員



⑥ 土器の計測をする学芸員

博物館とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学に関する資料を集め、保管し、それらを展示している施設です。博物館には、資料の収集・保管、調査研究、展示、教育普及等の専門的な仕事を行う学芸員が働いています。また北海道博物館の展示場では、訪れるお客さんの案内をしたり、展示の解説を行う解説員が働いています。

### 博物館と資料

博物館では、文化財としての価値をもつさまざまなモノが、捨てられずに残されたりして将来失われることがないよう、それを資料として集めています。博物館が集めた資料は、**収蔵庫**や展示場などで保管します。北海道博物館では、北海道に暮らした人たちが使った昔の道具、土の中から発見された化石やさまざまな遺物、昔の人が書いた手紙・記録(古文書)や本、絵などを集め、動物・植物・昆虫などの標本をつくって資料を増やしています。また、資料を利用しやすいように整理し、目録やデータベースをつくって、資料情報を一般に公開しています。

集めた資料は、ただ保管するだけではなく、活用していくことも大切です。**展示**は、資料が持っている価値を利用者に伝える重要な活動です。資料を展示する際には、展示室の環境が資料に悪い影響を与えないか、常に気をつけなければなりません。そのため、定期的に収蔵庫にしまって資料を休ませたり、温度や湿度の変化を観察したり、資料にダメージを与えるカビや害虫を駆除して、保存環境を整えることも、博物館の大切な仕事となっています。

### 学芸員の仕事

**学芸員**は、博物館に集められた資料の調査や研究を行う専門職員です。調査や研究の結果を

かったことをレポートにまとめたり、論文や本を書いて発表したりします。また、博物館を訪れる利用者に、調査研究の成果をわかりやすく伝えるために、展示会を企画したり、講演会・講習会などの**普及行事**を開催します。小学校・中学校などの学校団体が見学に訪れたときに、授業を行ったり、展示場で質問に答えたり、教材をつくらたりするのも学芸員の仕事です。

北海道博物館には、30名に近い学芸員がいて、生物、地学、歴史、美術、生活、産業、アイヌ民族、博物館学などの専門的研究をしています。また、資料や展示の内容を深めたいという利用者のために、調べ方を教えたり、本を紹介したり、情報を提供したりして、学習のお手伝いや相談にのるような活動もしています。

### 博物館の施設

博物館には、たいてい常設の展示場があります。**常設展示**では、その博物館が持っているおもな資料を公開しています。いつ博物館へ訪れても、誰でも同じように学ぶことができるよう、このような展示場がおかれています。北海道博物館には**総合展示室**という展示場があり、いつでも北海道の自然・歴史・文化を学ぶことができます。展示場には**解説員**がいて、利用者の案内や講解のほか、展示の内容に関する質問に答えたり、解説を行ったりして、利用者との交流を深めています。

**特別展示室**(企画展示室)では、他の博物館などから資料を借りてきて**特別展**(企画展)を開催したり、ふだん収蔵庫にしまっている資料を特別に公開したりするような活動が行われます。地下の講堂では、講演会や講習会(ワークショップ)などの普及行事が行われます。また、野幌森林公園のなかで自然観察会も行われます。はっけん広場(体験学習室)では、実際に資料にさわったり、動かしたりすることができます。**図書室**では、博物館の図録や資料に關係のある本を調べることができます。博物館では、利用者がさまざまな学習を行うことができるよう、利用者主体の運営が行われています。



⑦ 特別展示室で開催される企画展



⑧ 講堂で開催される講演会



⑨ 野幌森林公園で開催される自然観察会



⑩ 図書室



### 図書室で調べよう

1階の交流スペースの階段を地下へ降りると図書室があります。博物館の出版物や北海道に関する書籍などから情報を集めよう。

### 情報デスク

1階と2階にある「情報デスク」には、解説員が常駐しています。何かわからないことがあれば、質問してみよう。

## 総合展示室で調べよう

### 【見学モデルコース】

#### ① 北海道博物館ハイライト (60分)

第1テーマから第5テーマまで、順番に1階と2階をまわり、北海道の自然・歴史・文化を幅広く学びましょう。

#### ② 北海道120万年の歴史とアイヌ文化を学ぶコース (60分)

1階の第1テーマと第2テーマの展示をじっくり見て、本州とは異なる北海道独自の歴史や、アイヌ文化についての理解を深めましょう。



**学習課題** 北海道博物館ではどんなことができるのでしょうか。総合展示室にはどんな物が展示されているのでしょうか。

北海道博物館の総合展示は、1階と2階の合わせて3,000㎡の面積で展開されており、北海道の自然・歴史・文化を5つのテーマに分けて紹介しています。

展示全体のコンセプトは「北東アジアのなかの北海道」と「人と自然のかかわり」です。わたしたちは、北海道を、日本の北のはずれと考えがちですが、北東アジアという広い視野で見ると、ちがった姿が見えてきます。また、自然の恵みと人の営みをそれぞれ別のものとして見てしまいがちですが、自然と人のかかわりを知ることで、新しい姿が見えてきます。北海道の過去と現在のすがたを知り、そこから未来を考えてみましょう。

第1テーマから順番に見ていくと、だいたい60~90分かかります。じっくり丁寧にみると、約180分(約3時間)かかります。

順路は決まっておらず、どのテーマからでも見学をはじめられます。滞在時間や学習の目的によって、自由に見学コースを設定しましょう。

### 【フロア】 北と南の出会い

総合展示室に入ると、北海道を中心とする北東アジアの衛星写真が床一面に広がります。その上に、ナウマンゾウとマンモスの復元骨格が、北海道をはさんで向かい合うように展示されています。北海道の上に立ち、まわりを眺めてみたり、正面のスクリーンで映像を見ると、北海道がどんなところなのかを知ることができます。

### 【第1テーマ】 北海道120万年物語

およそ120万年前から、開拓が本格的にはじまった19世紀おわりごろまでの北海道と、そこに生きた人びとのあゆみを紹介しています。北海道の大地の成り立ちから、旧石器文化、縄文文化、鉄器文化、弥生文化へと展開する人びとの文化、そして蝦夷地から北海道へと移り変わるころのアイヌ民族と和人の歴史や、開拓初期の歴史について学ぶことができます。

### 【第2テーマ】 アイヌ文化の世界

アイヌ民族は、北海道をはじめ、サハリン(樺太)、千島列島などを生活の舞台として、さまざまな文化を育んできました。このテーマでは、アイヌ民族の現在や、昔の住まいや衣服などの暮らしの道具、信仰と儀式、アイヌ語や物語・歌などの伝承されてきた文化、さらに近現代を生きるアイヌのすがたを学ぶことができます。

### 【第3テーマ】 北海道らしさの秘密

北海道ならではの景色、海や大地の資源を活かし育ってきた数々のモノづくり、多雪寒冷な気候に適応しようと模索した生活スタイルなど、いまの北海道には「らしさ」がたくさんあります。このテーマでは、農業・漁業・鉱工業・林業といった産業や産物、人びとの暮らしの歩みをたどることで、北海道の魅力とアイデンティティを再発見することができます。

### 【第4テーマ】 わたしたちの時代へ

戦後の復興期を経て経済発展が進むなかで、北海道の産業や人びとのくらしは大きく変化しました。このテーマでは、20世紀のはじまりから現代までの、私たちが生きている「いま」と直接結びついている約100年の北海道のあゆみを紹介しています。昭和の戦争の時代や、高度経済成長期の人びとのくらしについて学ぶことができます。

### 【第5テーマ】 生き物たちの北海道

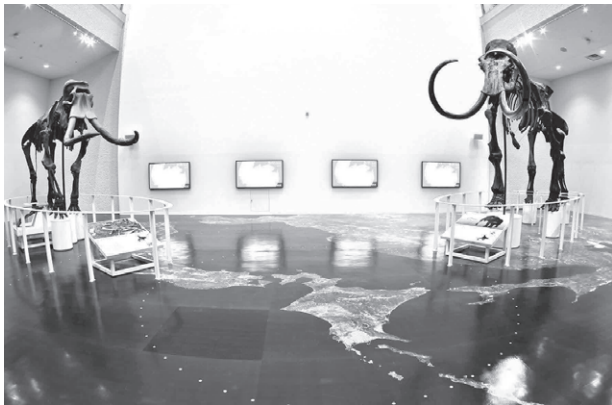
明治時代からわずか百数十年で、北海道の自然は急速に変えられました。このテーマでは、ヒグマやエゾシカ、サケなど、生き物の視点で北海道の自然を見つめ、生き物どういふつながりを知り、ヒトと自然の関係について考えることができます。動物園のソファや、どんぐりとほかの生き物のつながりを実感できる装置「どんぐりコロコロ」など、子どもが楽しめる展示物もたくさんあります。

### 【見学のヒント】

やみくもに展示場を歩いていると、見学時間が足りなくなることがあります。はじめに展示場全体を一巡りしてから、自分の興味・関心に応じてメリハリをつけて見る場所を決めると、効率よく見学することができます。



写真7-2 チャレンがワーク レベルC (A4版24頁) 上: 6~7頁、下: 12~13頁



【フロー】  
北と南の出会い

学習課題 北海道はどんなところなのですか。

わたしたちは、北海道を、日本の北のはずれと考えがちですが、北東アジアという広い視野で見ると、違った姿が見えてきます。また、自然の営みと人の営みをそれぞれ別ものとして見てしまいがちですが、自然と人の関わりを知ること、新しい姿が見えてきます。北海道の過去と現在の姿を知り、そこから未来を考えてみましょう。

**宇宙から見た北海道** 北海道の南には、本州、四国、九州、沖縄へと島々が続いています。北には**サハリン(樺太)**が長くのび、その先にはユーラシア大陸が広がっています。東に**千島列島**をたどると、その先はカムチャツカ半島です。北海道はこれらをつなぐ位置にあり、遠い昔から、多くの生き物や人、物が行き交う交差点となってきました。北からは**マンモスゾウ**、南からは**ナウマンゾウ**がやってきました。床に描かれた北海道の上に立ち、周りをながめてみましょう。

**北海道はどんなところ？** 正面にあるスクリーンでは、北海道の地理的な特徴を映像で紹介しています。北海道は、日本では「北国」と見なされていますが、ロンドンやパリなどのヨーロッパの都市より南にあります。にも関わらず、冬は寒く、雪がた

● このコーナーには、どんな展示物がありますか。展示物を紹介しながら、展示の内容を簡単に説明しましょう。 ※下の空欄に気づいたことや調べたことなどを書きこんでおきましょう。



発見されたのはどんな動物の骨でしょう

●おもな展示物



④ この2種のゾウは、それぞれどんな特徴があるのでしょうか。

くさん降り、海が流水で覆われる地域もあります。すんでいる動物は本州よりユーラシア大陸と共通しています。亜寒帯の針葉樹と温帯の広葉樹が同居しています。そして、大昔から「北東アジアの十字路口」でした。

**ナウマンゾウ** ナウマンゾウは、約65万年前から数万年前まで東アジアにすんでいたゾウで、北海道には少なくとも12万年前に本州から渡ってきました。1969(昭和44)年に十勝地方の忠類村(現在の幕別町)で発見されたナウマンゾウは、全国から集まった研究者とボランティアによって発掘され、ほぼ1頭分の化石が見つかりました。年を取ったゾウで、オスであると考えられています。

**マンモスゾウ** マンモスゾウは、約40万年前から約1万年前までヨーロッパやシベリア、北アメリカなどにすんでいたゾウです。シベリアで発見された氷漬けの死体(ミイラ)によって、体が長い毛で覆われていたことや小さな耳を持っていたことなど、寒冷な気候に適した体であったことがわかりました。北海道には、数万年前の特に地球が寒かった時期に、サハリンを渡って大陸から渡ってきました。大きく曲がった巨大な牙は、雪を掘って食べ物を探すことにも使っていたと考えられています。



3 蝦夷地のころ

学習課題 アイヌ民族の自由な交易活動は、和人の関わりのおかげでどのように変化していったのでしょうか。

郷土文化のあり方、北海道に住んでいた人たちは、本州の人びと(和人)から蝦夷とよばれていました。蝦夷は、和人やサハリン(樺太)の人たちと交易をするなかで、生活のスタイルを変えていきました。これ以降の文化をアイヌ文化とよび、その担い手がアイヌ民族です。一方、このころ、和人がアイヌ民族の住む蝦夷地にも入りこんできました。交易もさかんになりましたが、やがてアイヌ民族の自由も奪われていきました。

**和人の夷島進出** 東北地方の北部に室賀・安藤氏があらわれ、13世紀ごろ日本海側に十三湊が築かれると、北海道と本州の間の交易活動がさかんになります。十三湊は、北陸地方・京都と北海道を結ぶ中継の湊として発展し、15世紀には最盛期をむかえました。中国製の陶磁器や銅銭などが北海道へもたらされ、北海道のコンブやサケが本州へ運ばれました。

交易がさかんになるにしたがって、たくさんの和人が北海道南部へ渡ってきて、館がつくれるようになります。やがてアイヌ民族の生活がおびやかされることも増え、1457年にはコシャマインの戦いがおこりました。15世紀中ごろから16世紀中ごろまで、アイヌ民族と和人の争いが続きます。こうしたなか、和人勢力は蠣崎氏によってまとめられました。

**アイヌ民族と松前藩** 1599年、蠣崎氏は姓を松前と改め、1604年には、江戸幕府からアイヌ民族と交易する権利を与えられます。アイヌ民族は、それまで本州にも出かけ、自由に交易を行っていましたが、しだいに交易をするために松前へ行くよ

● このコーナーには、どんな展示物がありますか。展示物を紹介しながら、展示の内容を簡単に説明しましょう。 ※下の空欄に気づいたことや調べたことなどを書きこんでおきましょう。

うになりました。1630年代ごろ、アイヌ民族の住む蝦夷地と和人の区分がされ、**商場知行制**が成立すると、松前藩の家来がアイヌ民族の村へやってくるようになります。交易品の交換比率が和人主導のもとに決められるようになり、アイヌ民族にとって不利な取引が行われるようになりました。さらに砂金めあての和人がたくさん入りこんできて、アイヌ民族の生活の場が荒らされるようになりました。

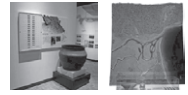
1669年、松前藩のやり方に不満をもった人びとが立ち上がり、**ジャクシャインの戦い**がおこりました。ジャクシャインたちアイヌ勢と松前藩はクヌイで戦いましたが、アイヌ勢は松前藩の鉄地隊に敗れました。その後ジャクシャインは、松前藩によるいつわりの和議で呼び出され、だましうちにより殺されました。この戦いに負けたアイヌ民族は、松前藩の支配を強く受けようになりました。

**ロシアの進出と場所請負制** 18世紀になると、アイヌ民族との交易や漁業を商人に請け負わせる**場所請負制**が行われるようになりました。アイヌの人たちは漁場の働き手としてかり出されましたが、働いた分の手当が支払われないこともありました。

1789年、**クナシリ・メナシ**のアイヌ民族が、松前藩や和人の商人のするいやり方に我慢できなくなり、和人11人を殺害する事件がおこりました。アイヌ首長たちの説得により、事件を起こした人たちが捕えられ、そのうち37人が処刑されました。事件の解決に協力したアイヌの首長たちは、**夷酋列像**という絵に描かれました。

このころ、千島列島に**ロシア**が進出し、外国船が蝦夷地のまわりにはられるようになります。蝦夷地の動きに危機感をもった江戸幕府は蝦夷地を直接におさめることとし、アイヌ民族への支配はますます強まりました。

●おもな展示物



## Development of the Hokkaido Museum Worksheet for Use by Schools

Shunsuke AZUMA

---

This article describes the contents of a worksheet (printed study material) developed to promote learning at the Main Exhibition Hall by school organizations (kindergartens, nursery, elementary, junior high and high schools), and explains the basic idea of development.

In museum education, a museum worksheet is defined as a thought-provoking learning support tool (Sub-teaching material) that attracts users to the displayed resources through appeals and questions and provides hints on observation, leading the student to enjoy discovery and new understanding. Up to now, such worksheets for school groups have not been developed at this museum, even when this museum was called the Historical Museum of Hokkaido (1971-2014). Individual school teachers would create their own worksheets for their students

when visiting the museum as part of school activities. In order to promote collaboration between museums and school education, it was decided that the museum should develop its own teaching materials.

In this article, the teaching materials were classified into three levels, A, B, and C. Learning goals and ability were set for each level by determining what type of teaching material would be developed. Level A included "Find an exhibit", "Search for the name of an exhibit" and "Exhibit sketch". Level B targets social study field trips mainly by elementary school 4<sup>th</sup> graders. And level C (to understand contents of an exhibit) is to be used on training and school trips for junior high school and high school students.